

東京医科大学医学部看護学科

2024 年度卒業生アンケート

結果報告書



東京医科大学教育 IR センター

東京医科大学 看護同窓会

巻頭言

PDCA サイクルを回し、今日より明日へと発展する看護学教育を



東京医科大学 学長 宮澤 啓介

本学の教育は、社会の変化とともに常に進化を求められています。2020年以降の新型コロナウイルス感染症の影響をはじめ、気候変動や世界情勢の不安定化、AIの急速な発展などにより、医療や教育を取り巻く環境は大きく揺れ動きました。臨床実習の一時的な制限やオンライン授業の導入など、学生の学びの形が変化する中でも、私たちは教育の質を損なうことなく、柔軟かつ創造的に対応してまいりました。

こうした背景を踏まえ、このたび教育 IR センターを中心に実施・集計した「2024年度卒業生アンケート」の結果をお届けいたします。本調査は毎年、卒業後一定の年数を経た同窓生にご協力をお願いし、継続的に行っているものです。今年も多くの方々から貴重なご意見を頂戴し、心より感謝申し上げます。

本学は「患者と共に歩む医療人を育てる」というミッションのもと、医学・看護学教育を推進してまいりました。知識や技術の習得にとどまらず、思いやりの心を持ち、多様な社会のニーズに応えられる人材を育成することを重視しています。内部質保証の方針に基づき不断の改善を重ねるうえで、卒業生の声は教育の方向性を検証する大切な指標です。

今回の結果からは、カリキュラムや施設、教員への高い評価が示される一方で、社会の変化に即した学びや多様な対象者を支える看護教育など、今後の課題も明らかになりました。これらは教育改善を進めるうえで極めて重要な示唆であり、まさに PDCA サイクルを回すための貴重なリソースです。

卒業生アンケートは、単なる数値の集積ではなく、看護学教育の未来を照らす羅針盤となります。本冊子をじっくりとご覧いただき、ご意見やご感想をお寄せいただければ幸いです。今後とも本学の教育活動に温かいご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2024 年度 看護学科卒業生アンケートに寄せて



東京医科大学医学部 看護学科長 小室 佳文

2021 年度からの改正カリキュラムが 2024 年度に完成年度を迎え、多くの方の協力を得て評価を行っています。その中でも卒業生という学びの当事者からの意見は大変貴重なものです。卒業生が必要と感じた学習内容や卒後数年後の活動状況がフィードバックされ、どのようなカリキュラムが卒業後に役に立ち、習得した力を発揮することにつながるのか検討する手がかりとなります。2025 年 3 月に文部科学省より「看護学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 6 年度改訂版）」が発出されました。本学カリキュラムとの照合を行い、多くの方の評価結果を活かした改善に向けて検討を進めています。これまで良い評価を頂いた取り組みについても、時代を反映した一層充実したものとなるようにいたします。

多くの卒業生は多様なキャリアを選択し経験を積み重ねているようです。卒業生には持つ力を発揮する充実した日々を重ねて頂きたいため、大学として、卒業生のキャリア形成支援やリカレント教育の機会などを設けることが求められると考えています。教員体制は時とともに変化しますので卒業生と教員との個別のつながりを維持することは難しいことがあるかもしれません。今後は、支援の内容や体制へのご意見も伺いたいと考えています。

2025 年 4 月に看護学研究科を開設しました。実践から生じた疑問や問題について新たな視点で考えたい方やケアを探求したい方、後輩の育成に力を入れたい方には自己を發展させる機会としてご検討いただきたく思います。

今回もご協力いただいた卒業生の皆様に御礼を申し上げます。また、アンケートを実施、分析を行い、報告をまとめて頂いた教育 IR センターの皆様に深謝いたします。卒業生アンケートは毎年実施いたしますので、本学の改善のために、今後もより多くの方からご協力いただけますようお願い申し上げます。

2024 年度看護学科の卒業生アンケートに寄せて



東京医科大学看護同窓会会長 石塚 睦子

近年、全国各地で猛暑が続き、異常気象が生じて、環境変化が健康に与える影響についても考えさせられる今日この頃です。そのような中、今年も卒業生アンケートが手元に届きました。アンケートに協力いただいた卒業生の皆様のご協力に感謝するとともに、データの収集・分析に尽力された教職員の皆様には、心よりねぎらいの言葉を送りたいと思います。今年度は、卒後 1 年目、2 年目、5 年目の卒業生が対象とされており、興味深く読ませていただきました。

医療の評価は、医療を受ける人の評価・満足度が大切です。教育は、教育を受ける人の評価・満足度が大切です。届いた結果を見ますと、総合的に望ましい結果が得られていると思えました。一部改善すべき点への意見もあり、そこは受け止める必要性がありますが、卒業生が身に着ける能力の結果を見ますと主観的評価とはいえ、近年に近づくほど身に付いたと回答している割合が増加し、カリキュラムの満足度についても高まっていることがわかります。それは、卒業生の貴重な意見をもとに、教職員の皆様が改善への努力をされている結果と考えます。

総合的評価の中には、「東京医科大学の卒業生であることを誇りに思う」という意見がありました。それは出身校の名前だけが誇りなのではなく、そのように答えた人の背景には、東京医科大学の恵まれた学習環境や医療の対象となる人々への倫理的配慮への取り組みや国試の合格率など、様々な側面があって、誇りを感じてくれたことと思います。

卒業生の皆様には、大学で学び、そこから自分が時に悩みながらも糧を得てさらに成長し、対象となる人々に自分の理想とするような実践ができたという手ごたえを積み重ね、誇りを持つ人に近づいていってもらえれば、と思います。また、5 年後には職場を変更している人が多かったのですが、様々な節目を皆様経ていく中で、ステップアップすることもあれば、三步進んで二歩下がることもあるでしょう。人間は完璧ではありませんが、それを謙虚に受け止めながら、周囲の人と協働し、人間だからできることを活かせる看護師の価値を実感しながら社会貢献していただけると嬉しい限りです。

東京医科大学での教育が、在学生・卒業生にとって今後も満足度の高いものとして充実していくことを祈っております。

看護学科

目次

1. はじめに.....	6
2. 調査基本情報.....	6
2.1 調査概要.....	6
2.2 調査項目（資料を参照）.....	7
3. 調査結果.....	8
Q1. 卒業年.....	8
Q2. 性別.....	8
Q3. 卒業直後の進路.....	9
卒業直後に就職した人の	
Q4. 就職先.....	10
Q5. 職種.....	11
Q6. 雇用形態.....	12
Q7. 勤務の継続.....	13
Q8-1. 勤続年数.....	14
Q8-2. 退職理由.....	14
卒業直後に進学・そのほかの人の	
Q9. 現在の状況.....	15
Q10. 職種.....	16
Q11. 雇用形態.....	16
Q12. 勤続年数.....	17
Q13. 取得資格.....	18
Q14. 取得学位.....	19
Q15. 卒業後の意識や行動の変化.....	20
Q16. 卒業後のボランティアや社会貢献活動への参加（自由記載）.....	20
東京医科大学に対する評価	
Q17. 教育到達目標の適切性.....	21
Q18. 身についた能力.....	23
Q19. カリキュラムの満足度.....	30
Q19-2. カリキュラムへの意見（自由記載）.....	34
Q20. 在学中にもっと学びたかった項目.....	35
Q21. 母校の良かった点.....	37
Q22. 母校の改善すべき点.....	42
Q23. 母校の総合的評価.....	45
Q24. 意見や要望（自由記載）.....	48

4. まとめ	49
<資料>	
1. 卒業生アンケート質問票	51
5. おわりに	58

1. はじめに

東京医科大学医学部看護学科は 2013 年に開設され、2025 年現在 13 年目を迎えている。2016 年度に初めて卒業生が誕生し、2024 年度末で 804 名が卒業した。

2013 年の薬学分野を皮切りに、日本でも高等教育における質保証を行う目的から医療系の専門分野における分野別評価が開始されている。分野別評価とは、その分野の教育活動について自己点検評価した内容が評価基準に適合しているかを問われるものである。看護学分野も、薬学（2013 年評価事業開始）、医学（2017 年評価事業開始）に次いで、2020 年に日本看護学教育評価機構（Japan Accreditation Board for Nursing Education ; JABNE）により、分野別評価を開始しており、2022 年度に東京医科大学医学部看護学科も受審をして、「適合」を得た。JABNE による評価項目には、「評価項目 3-3 雇用者・卒業生からの評価と改善」として「16. 卒業生に教育プログラムに対する満足度調査、卒業後の動向調査をしている」という内容が含まれており、卒業生からの評価は、自己点検のための重要な指標とされている。

以上を踏まえ本調査は、これまで東京医科大学医学部看護学科を卒業した卒業生を対象に、キャリアの実態・動向を把握すると共に、在学時のカリキュラムや学校環境等を卒業生の視点から評価することによって、今後の看護学科のカリキュラムや教育プログラムの改善に向けた基礎資料（エビデンス）を得ることを目的に行っている。

2023 年度までは、全卒業生にアンケート回答を依頼していたが、卒業生が毎年回答する負担を考慮し、2024 年度は、卒後臨床研修等で変化の大きい卒後 1、2、5 年の卒業生を対象者とした。

2. 調査基本情報

2.1 調査概要

- ① 調査期間：2025 年 1 月 1 日～2 月 28 日
- ② 調査対象：

卒後 1 年目	2024 年 3 月卒業生
卒後 2 年目	2023 年 3 月卒業生
卒後 5 年目	2020 年 3 月卒業生

- ③ 調査方法：調査用紙は、教育 IR センター及び同専門委員会で検討、作成した前回の調査用紙を教育 IR センター内で再検討したものを用いた。調査対象者への回答依頼は、東京医科大学看護同窓会（以下、同窓会）が管理している名簿を入手し、記載のある卒業生へ郵送で行った。また、前回行ったアンケートにメールアドレスの記載のあった卒業生、総合事務センターにメールアドレスを報告した卒業生にはメールでも依頼を行った。回答は web 上のアンケートシステム（今回も昨年度と同様に WEB CAST™）を使用した。
- ④ 回収状況：
発送数：249 回答数：140
回収率：56.2%

2020年3月卒（卒後5年）・2023年3月卒（卒後2年）・2024年3月卒（卒後1年）の卒業生計274名のうち、同窓会で住所を把握している249名にアンケートの回答依頼を郵送で行った。そのうちのメールアドレスを把握している卒業生にはメールでも回答依頼を送付し、全体で140名から回答を得た。回収率は56.2%だった。

表1 卒業年別卒業生数、回答数、回収率

卒業年	卒業生数	送付者数	回答数	回収率 (%)
2020年	95	74	37	50.0
2023年	86	83	42	50.6
2024年	93	92	61	66.3
合計	274	249	140	56.2

2.2 調査項目（巻末の調査用紙を参照）※赤字は2024年度からの変更・追加項目

属性に関する質問

Q1. 卒業年、Q2. 性別

卒業後のキャリアに関する質問

Q3. 卒業直後の進路

卒業直後に就職した人の Q4. 就職先、Q5. 職種、Q6. 雇用形態、

Q7. 勤務の継続、Q8-1. 勤続年数、Q8-2. 退職理由、

卒業直後に進学・その他の人の Q9. 現在の状況、Q10. 職種、Q11. 雇用形態、Q12. 勤続年数

卒業後の Q13.取得資格、Q14.取得学位

卒業後の意識や行動の変化に関する質問

Q15. 卒業後の意識や行動の変化、Q16. 卒業後のボランティアや社会貢献活動への参加

東京医科大学の教育についての質問

Q17. 教育到達目標の適切性、Q18.身についた能力、Q19. カリキュラムの満足度、

Q19-2. カリキュラムへの意見（自由記載）、Q20. 在学中にもっと学びたかった項目、

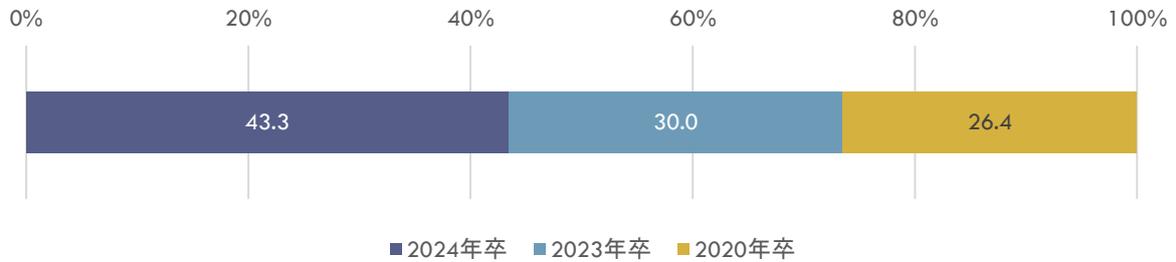
Q21. 母校の良かった点、Q22. 母校の改善すべき点、Q23. 母校の総合的評価、Q24. 意見

や要望（自由記載）

3. 調査結果

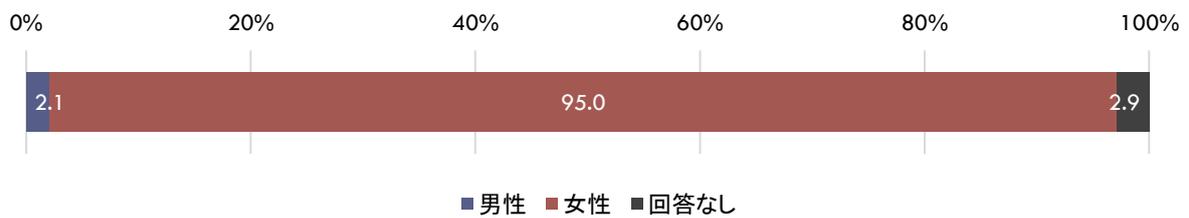
属性に関する質問

Q1. あなたの卒業年を教えてください。

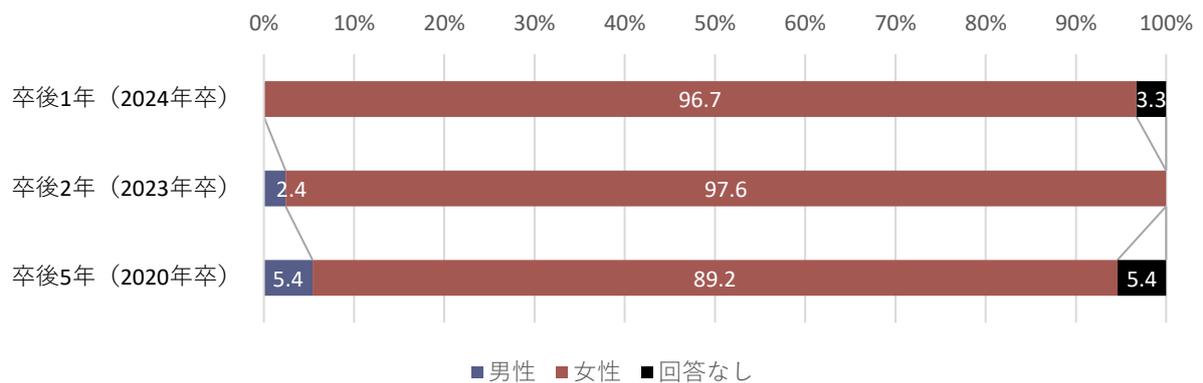


Q2. 性別を教えてください。

【全体】



【卒業年別】

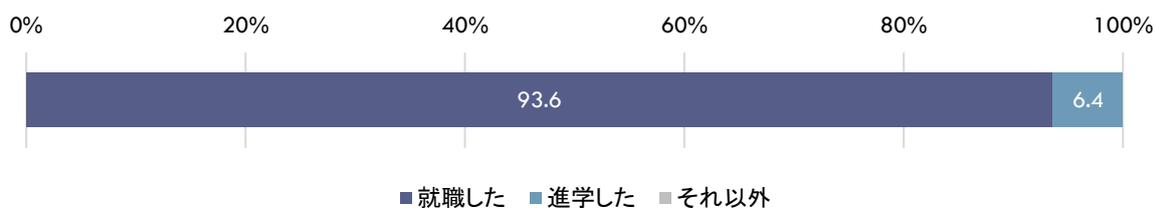


卒業後のキャリアに関する質問

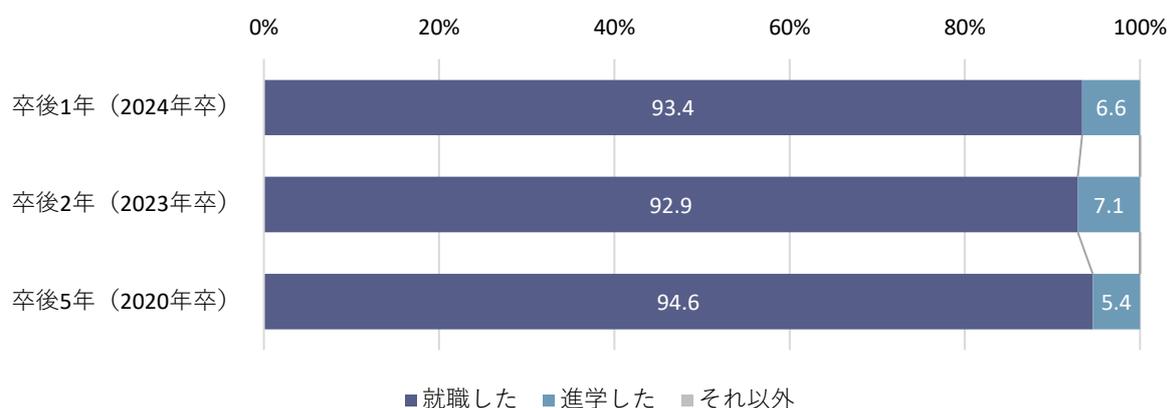
Q3. 卒業直後の進路を教えてください。

卒業直後は、全体として93.6%が就職していた。卒業年別に見ても、ほぼ93%以上という高い割合で就職していることが分かる。「それ以外」を選んだ回答はなかった。

【全体】



【卒業年別】



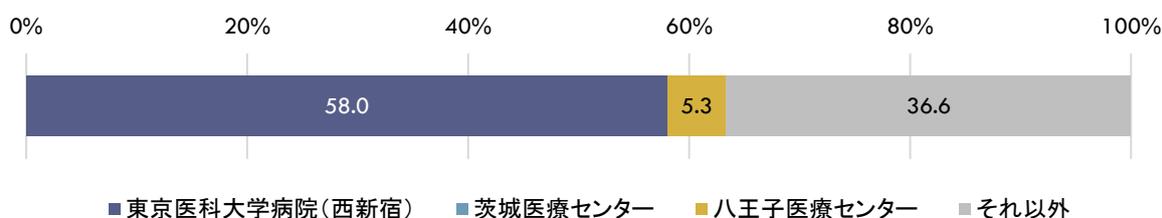
- ・ 「進学した」と回答した人の自由記述：

湘南医療大学、上智大学助産学専攻科、東京医療保健大学大学院、東邦大学大学院、日本赤十字看護大学大学院

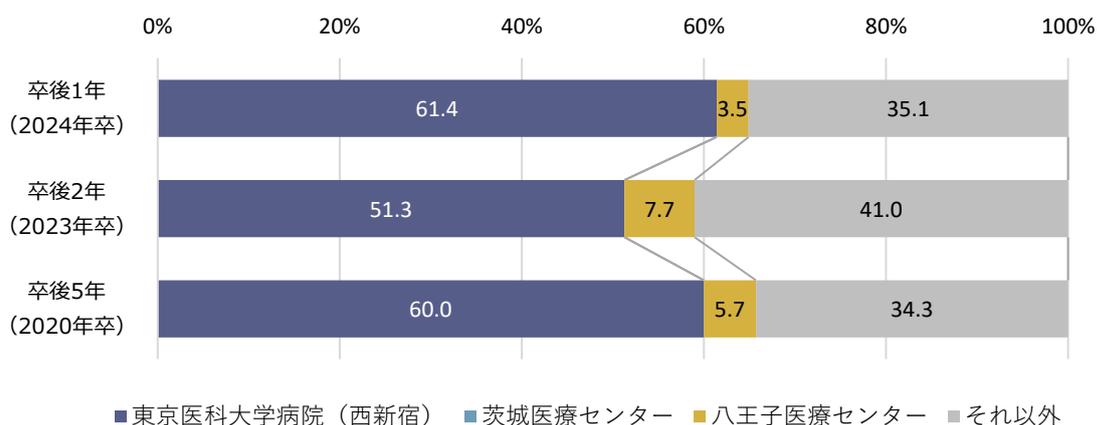
Q4. (Q3 で卒業直後に「就職した」と回答した人へ) 卒業直後の就職先はどちらですか。

卒業直後は、全体として約半数以上が東京医科大学病院（西新宿）に就職している。卒業年別で見ても、50～60%の割合となっている。

【全体】



【卒業年別】



- 「それ以外」と回答した人の自由記述：虎ノ門病院 (3)、北里大学病院、聖路加国際病院、山梨大学病院、東京医療センター、榊原記念病院、豊島病院、福寿会病院、大森赤十字病院、国立国際医療研究センター、厚生中央病院、三井記念病院、みなと保健所、災害医療センター、上尾中央第二病院、筑波大学附属病院、東大病院、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院、慈恵医科大学附属病院、長谷川病院、東京北医療センター、杏林大学医学部附属杉並病院、千葉大学病院、陽和病院、がん研有明病院、ふじみこども園、埼玉県、品川区役所、埼玉県庁、横浜市、薬局、大学病院

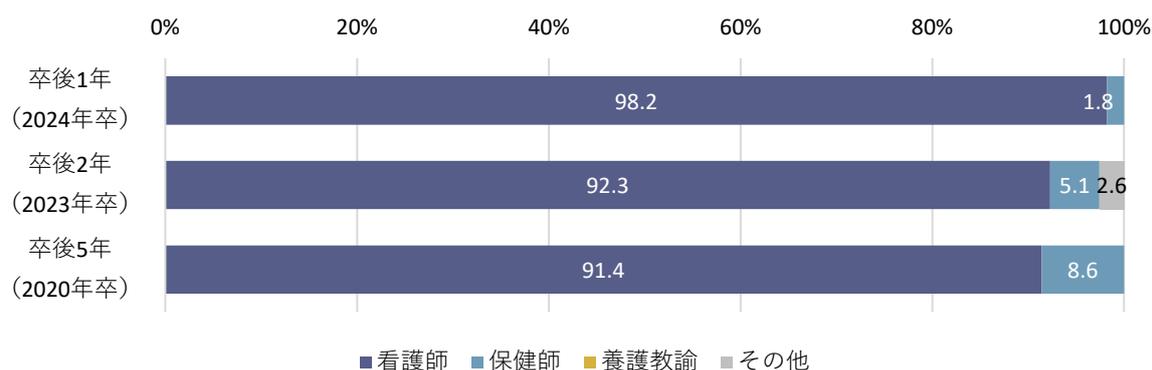
Q5. (Q3 で卒業直後に「就職した」と回答した人へ) 卒業直後の業務上の職種を教えてください。

卒業直後の就職時の職種は、全体としては看護師として就職している者が 94.7%、保健師が 4.6%、その他が 0.8 であった。卒業年別に見ても、ややばらつきはあるものの 90%以上が看護師として就職している。2020 年卒業生は、アンケート調査開始以降、保健師への就職が最も多かった年度となっている。

【全体】



【卒業年別】



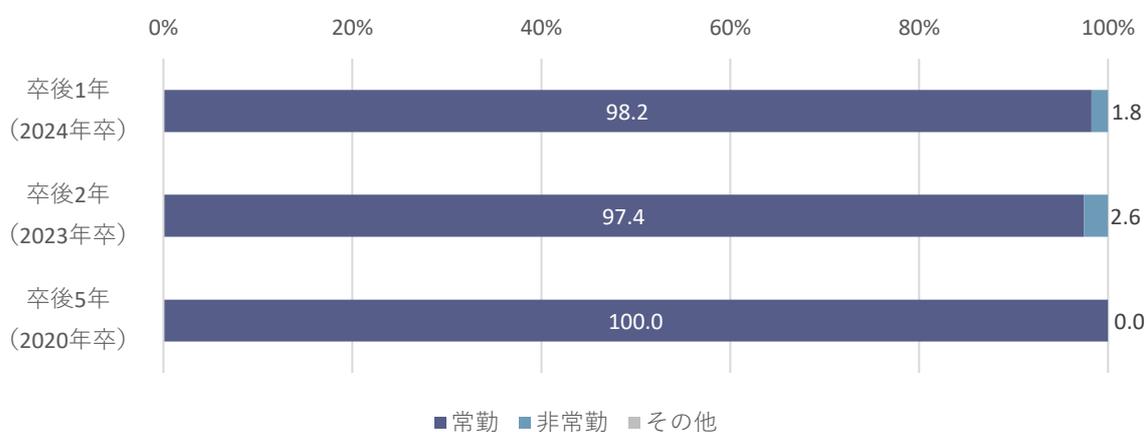
- ・ 「その他」と回答した人の自由記述：調剤事務、調剤補助

Q6. (Q3で卒業直後に「就職した」と回答した人へ) 卒業直後の雇用形態を教えてください。
卒業直後の雇用形態は、前年(2024年度)の報告書では回答者全員が常勤であったが、今回は2023年・2024年卒に若干数の非常勤を含む。

【全体】



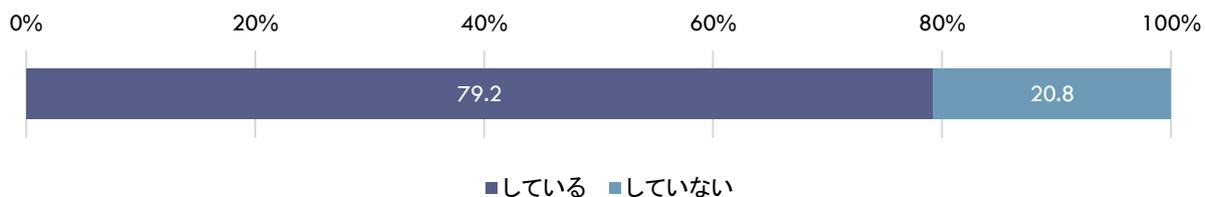
【卒業年別】



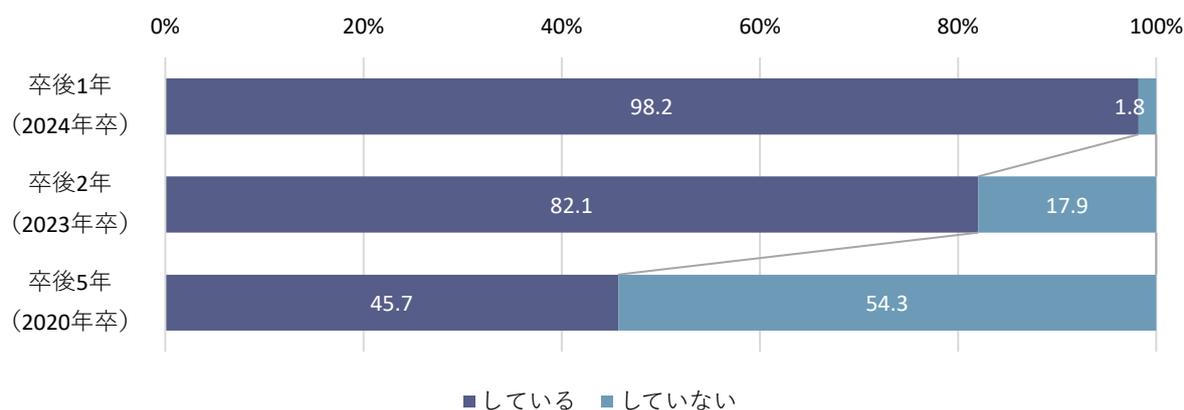
Q7. (Q3で卒業直後に「就職した」と回答した人へ) 現在も同じ所に勤務していますか。

卒業直後の就職先で勤務継続している者は全体として79.2%であった。卒業年別で見ると、一年以内で勤務先から離れる者はほぼ無く、卒後2年で約2割、卒後5年で半数以上が最初の勤務先を離れていることがわかる。この傾向は、前年度の報告書でも同様である。

【全体】



【卒業年別】

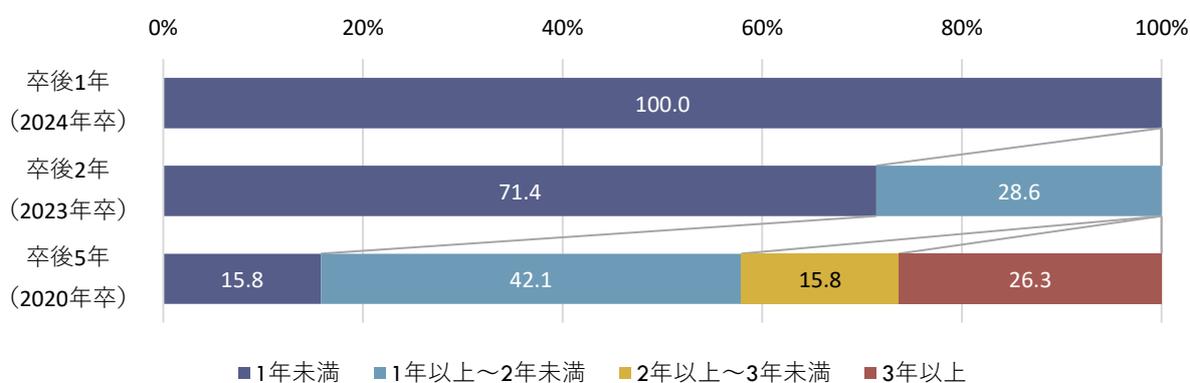


Q8-1. (Q3で卒業直後に「就職した」と回答し、Q7で現在も同じ所に勤務「していない」と回答した人へ) 卒業直後の勤務先の勤続年数を教えてください。

【全体】



【卒業年別】



Q8-2. 退職理由を教えてください (自由回答)。

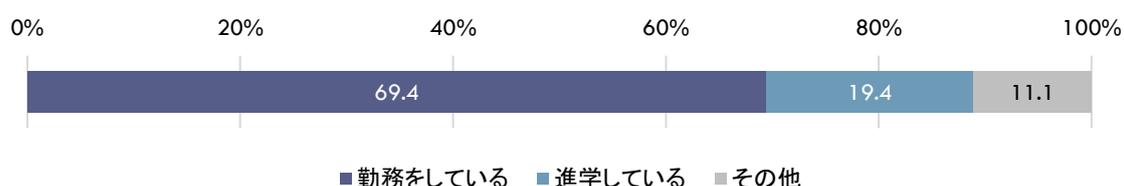
体調不良 (4)、進学 (3)、海外留学、仕事がこなせなかった、ハラスメント、資格取得、保健師に興味を持った

Q9-Q12 は、卒業直後に「進学した」「それ以外」と回答した者（10.0%）への質問である。

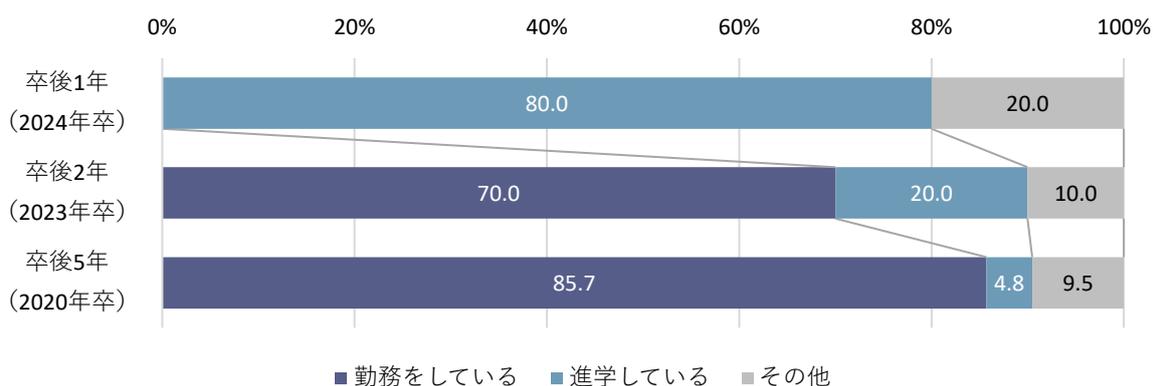
Q9. (Q3 で卒業直後に「進学した」「それ以外」と回答した人へ) 現在の状況を教えてください。

卒業直後に「進学した」「それ以外」と回答した者のうち、現在勤務している者は 69.4%であった。進学者（19.4%）の内訳は、卒後1年目（2024年卒）の者が8割を占めるが、それ以前の卒業生も進学している。前年度（2024年）の報告書では、進学者は卒後1年目（=2023年卒）のみだった。

【全体】



【卒業年別】

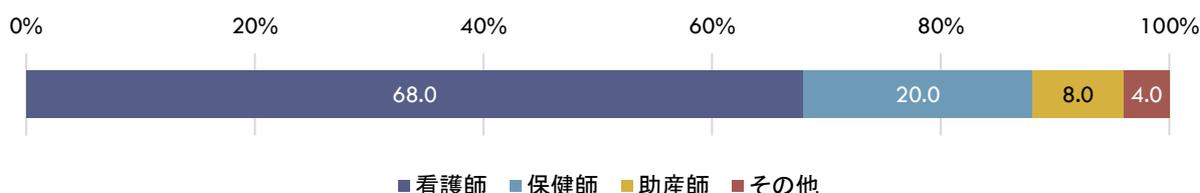


- ・ 「勤務をしている」と回答した人の自由記述（具体的な勤務先名）：あわーず東京訪問看護リハビリステーション、池袋藤久ビルクリニック、地域包括支援センター、新松戸中央総合病院、瑞江ひだまり整形外科、NHK健康保険組合、千葉大学次世代医療構想センター、順天堂医院
- ・ 「進学している」と回答した人の自由記述（具体的な進学先名）：東邦大学大学院、上智大学助産学専攻科、東京食糧栄養専門学校、助産師学校、日本赤十字看護大学大学院
- ・ 「その他」と回答した人の自由記述（具体的に）：復職活動中、進学準備、休職中

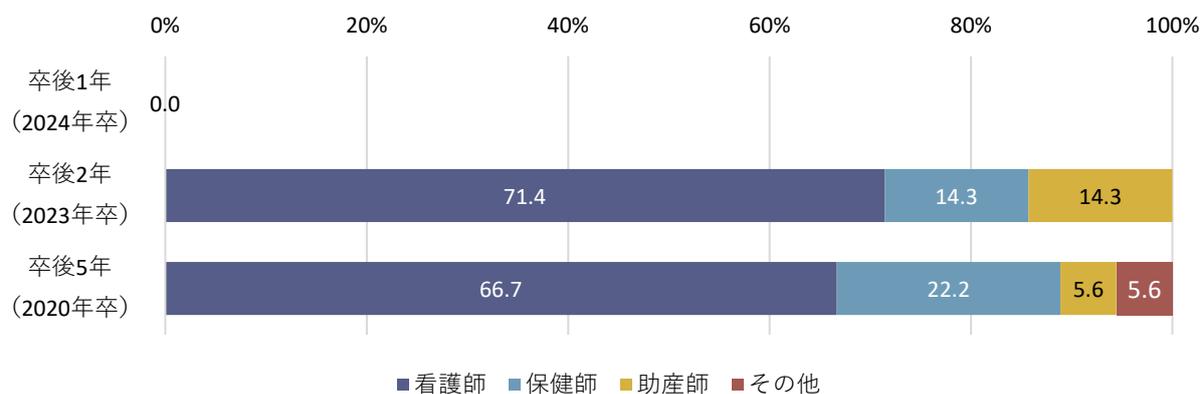
Q10. (Q3で卒業直後は「進学した」「それ以外」で、Q9で現在は「勤務している」と回答した人へ) 現在の業務上の職種を教えてください。※質問上、2024年卒は回答無し

卒業直後に「進学した」「それ以外」と回答し、現在は「勤務している」と回答した者に現在の業務上の職種を尋ねたところ、看護師が68.0%と大きく割合を占め、保健師が20.7%、助産師が8.0%だった。進学等を選んでも、看護師として就職する割合が高い状況が見える。

【全体】



【卒業年別】



「その他」と回答した人の自由記述 (具体的に) : 研究員

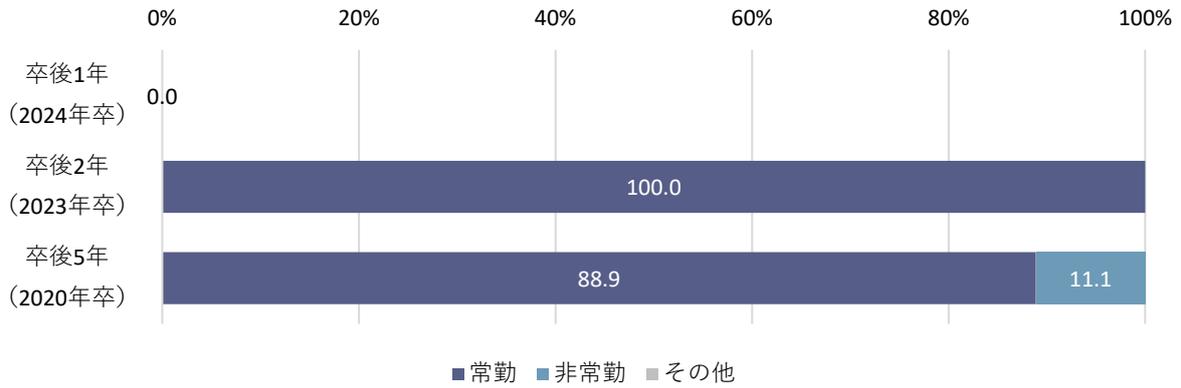
Q11. (Q3で卒業直後は「進学した」「それ以外」で、Q9で現在は「勤務している」と回答した人へ) 現在の雇用形態を教えてください。※質問上、2024年卒は回答無し

全体における現在の雇用形態は、92.0%が常勤であった。

【全体】

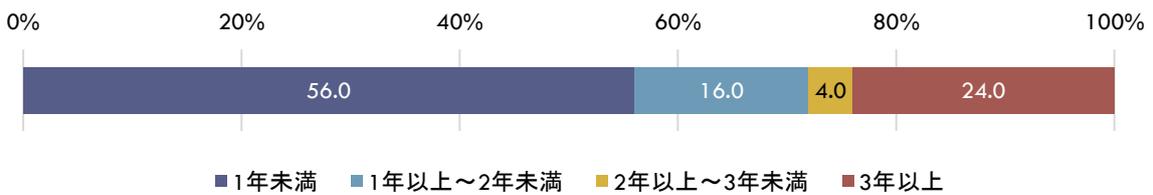


【卒業年別】

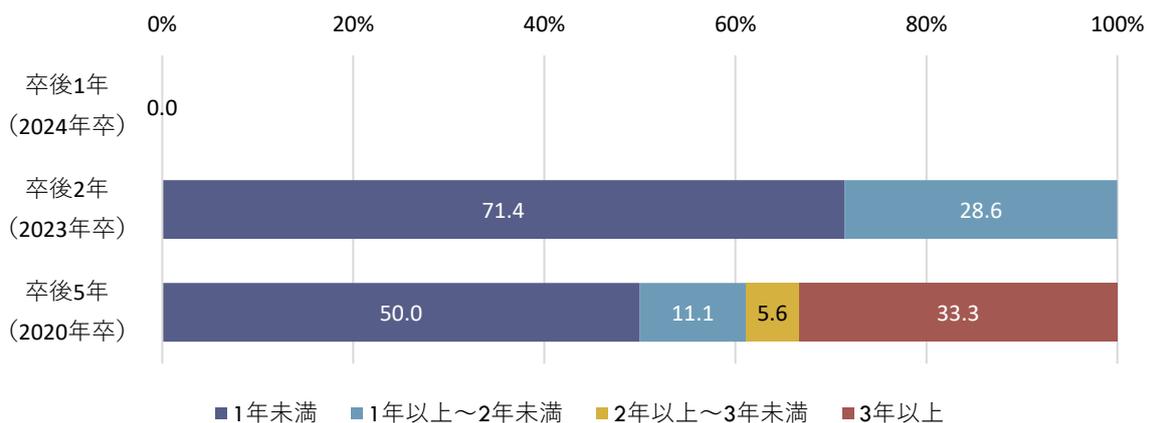


Q12. (Q3 で卒業直後は「進学した」「それ以外」で、Q9 で現在は「勤務している」と回答した人へ) 現在の所属先の勤続年数を教えてください。※質問上、2024 年卒は回答無し

【全体】



【卒業年別】



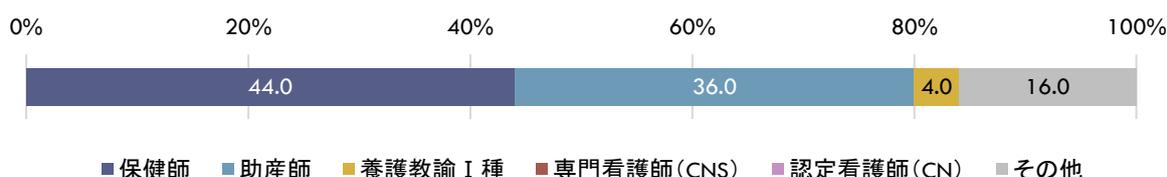
ここから全員に伺います。

卒業後の資格や学位取得について伺います。

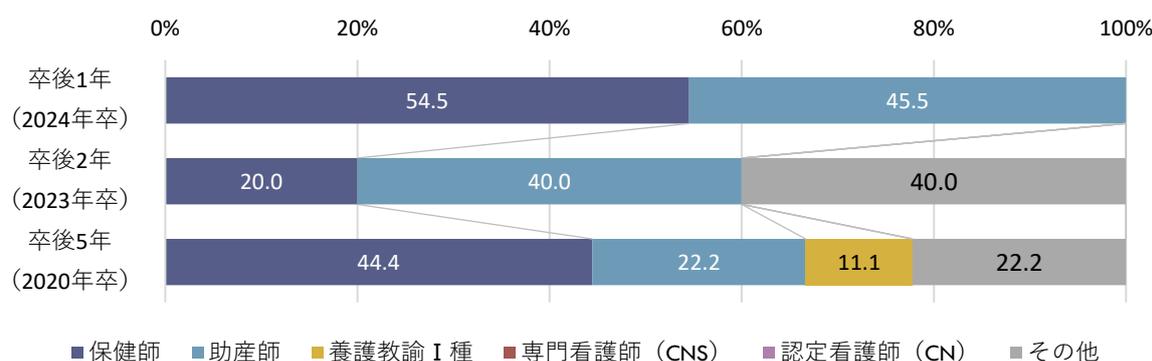
Q13. 卒業後に取得した資格を教えてください。 ※2024 年度に変更された質問項目

2023 年度では、専門看護師（CNS）・認定看護師（CN）の資格取得内容について尋ねる項目であったが、2024 年度では保健師・助産師・養護教諭 I 種が追加された。卒業後に取得した資格は、全体としては保健師と助産師が 8 割を占めるが、年度別に見ると 2024 年卒者がこの 2 つを取得し、卒後 1 年以上経つと他の資格を取得するようになることが分かる。（CNS）・（CN）の取得者は無かった。

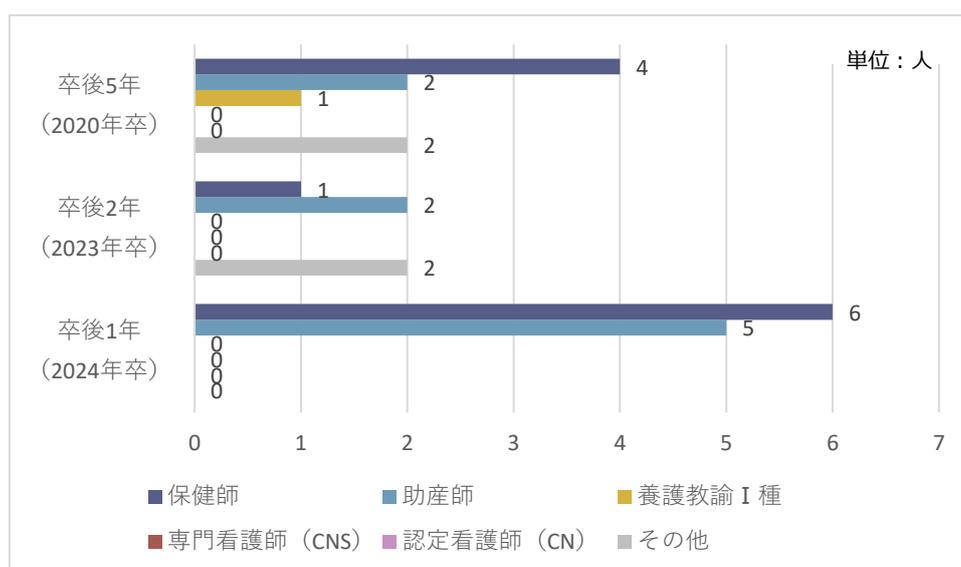
【全体】



【卒業年別】



【卒業年別人数】



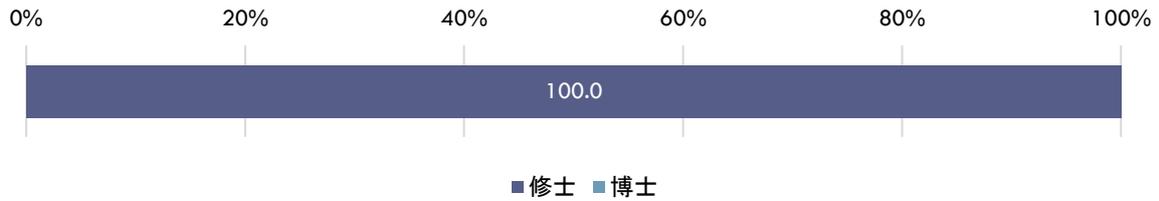
「その他」と回答した人の自由記述（具体的に）：ACLS、性の健康教育カウンセラー、呼吸療法認定士

Q14. 卒業後に取得した学位を教えてください。 ※2024年度に追加された質問項目

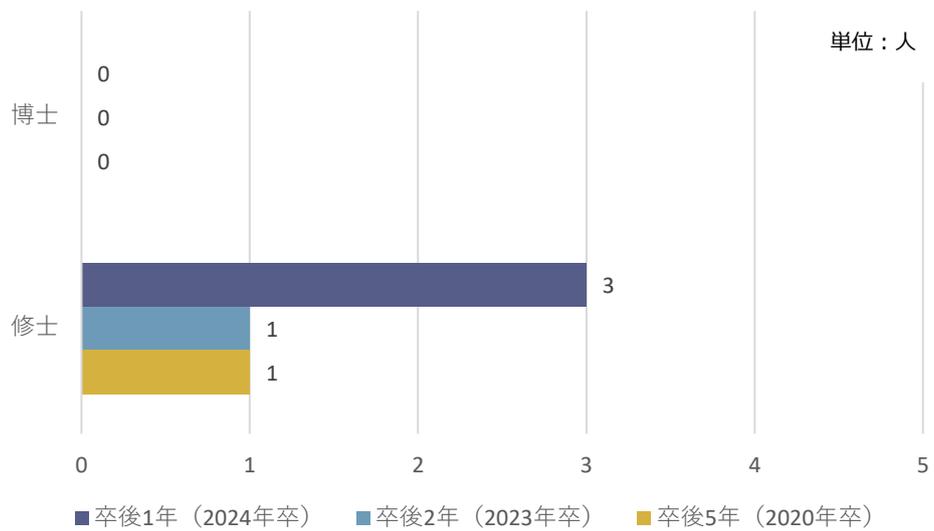
2024年度では、取得学位を問う質問が追加された。全体の割合と年度別人数を下に示す。取得学位は修士のみという結果となっている。

年度別で、卒後1年の卒業生の回答があるが、他学で学位を取得した社会人入学者か、取得見込みとして回答した結果と思われる。

【全体】



【卒業年別人数】



卒業後の意識や行動の変化に関して伺います

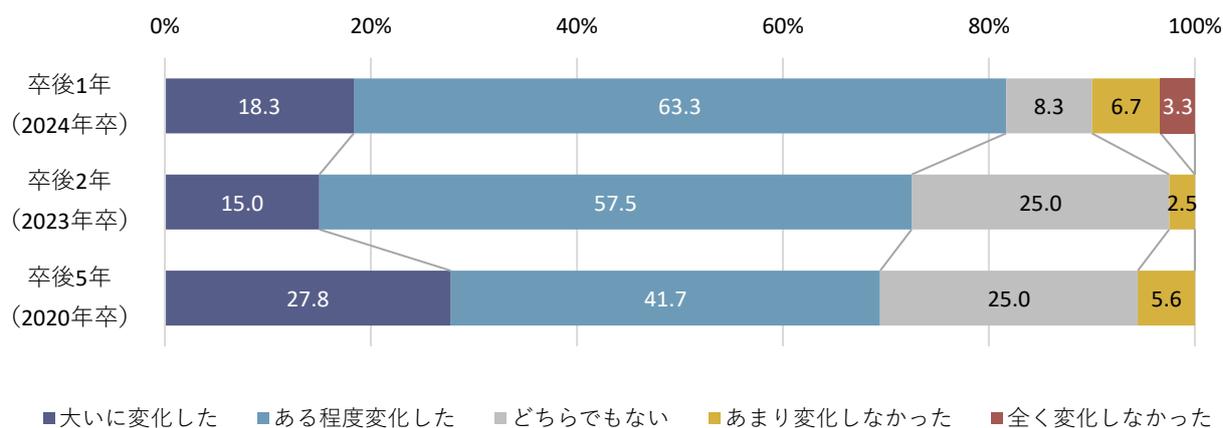
Q15. 卒業して社会に出たことで、“医療職として社会に貢献するという意識”は変化しましたか。

変化した（「大いに变化した」と「ある程度变化した」の合計）が全体の75.9%だった。年度別に内訳を見ると、「大いに变化した」層は減少しているが、「ある程度变化した」層が増加傾向にあることがわかる。

【全体】



【卒業年別】



Q16. 卒業してから今まで、ボランティア活動や社会貢献活動に参加しましたか。具体的に教えてください（自由回答）。

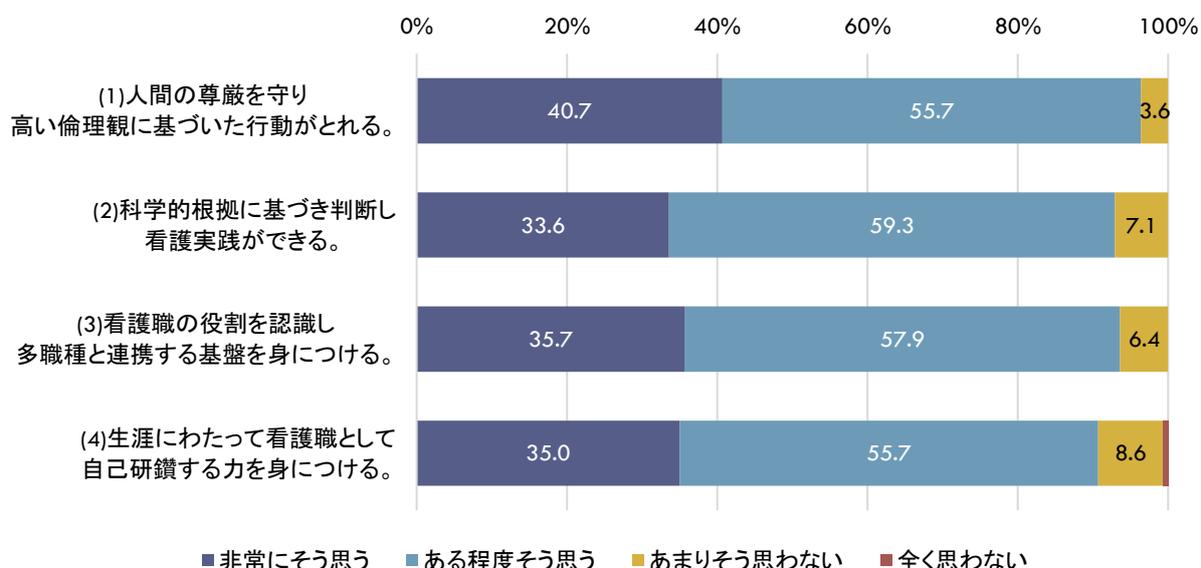
- ・ 看護師国際サミット運営。
- ・ 看護学生の実習補助に携わりました。
- ・ 保育園のボランティアに参加しました。

教育到達目標の適切性 ※2024年度に変更された質問項目

Q17. 東京医科大学看護学科では卒業時に達成すべき教育到達目標を定めています。この教育到達目標はご自身の経験に照らして、適切なものと考えますか。

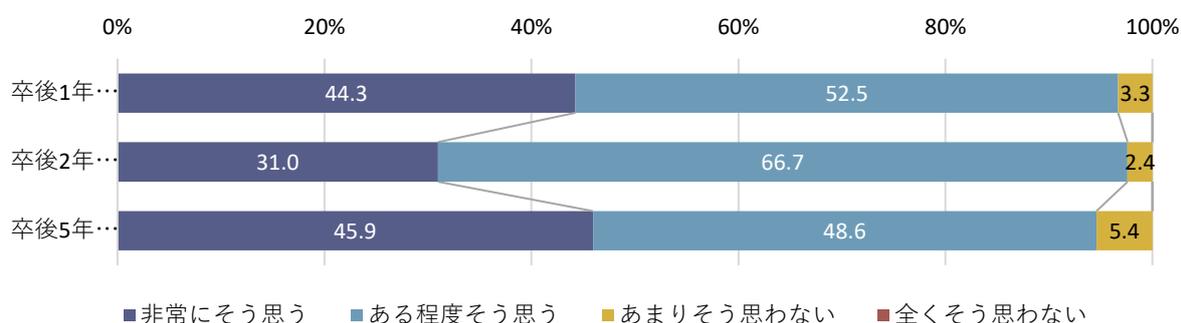
前年度では、「現時点でどの程度達成しているか」を尋ねる内容であったが、2024年度では「到達目標の適切さ」を答えるものに変更され、設定項目も6個から4個に調整された。「適切さ」の回答は、すべての項目において「非常にそう思う」が33~40%、「ある程度そう思う」が55~60%で、「適切である」と考える割合が90%超という高い回答結果となった。唯一「全く思わない」回答があったのは、(4)「生涯にわたって看護職として自己研鑽する力を身につける」の項目で、回答者は2024年卒であった。

【全体】

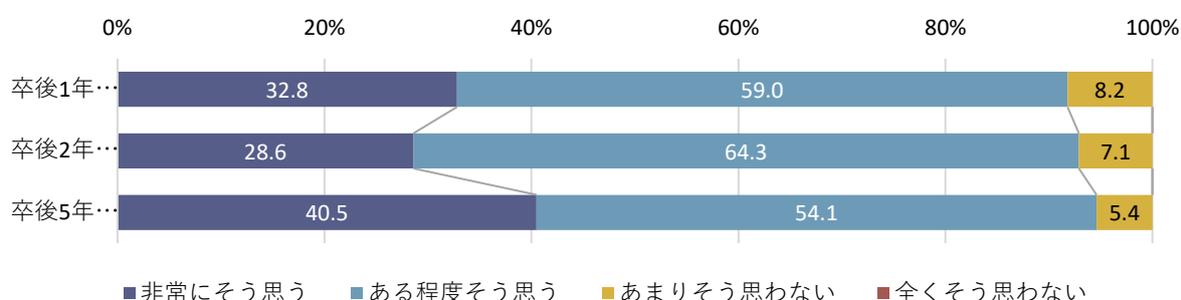


以下、到達目標ごとに、卒業年ごとの結果を示す。

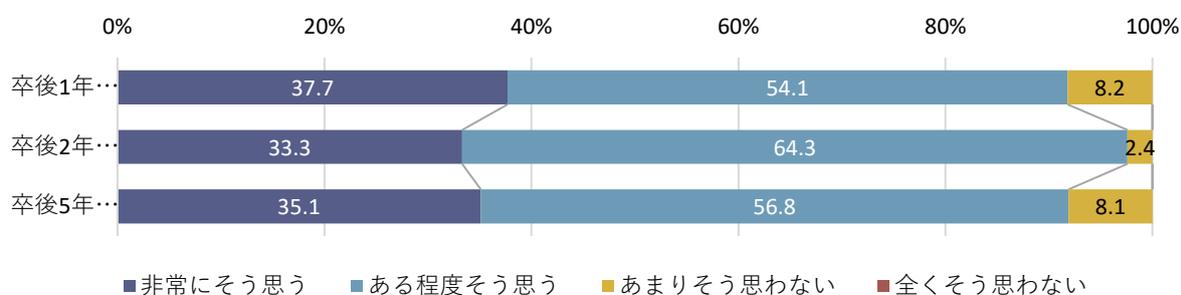
(1) 人間の尊厳を守り高い倫理観に基づいた行動がとれる。



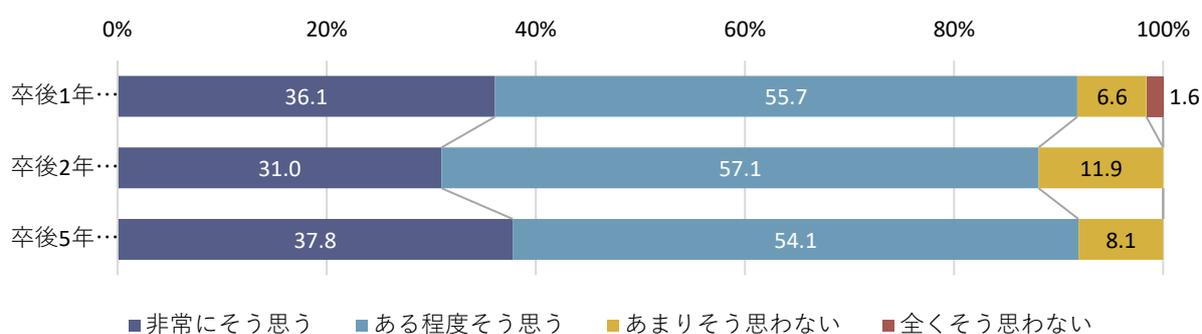
(2) 科学的根拠に基づき判断し看護実践ができる。



(3) 看護職の役割を認識し多職種と連携する基盤を身につける。



(4) 生涯にわたって看護職として自己研鑽する力を身につける。



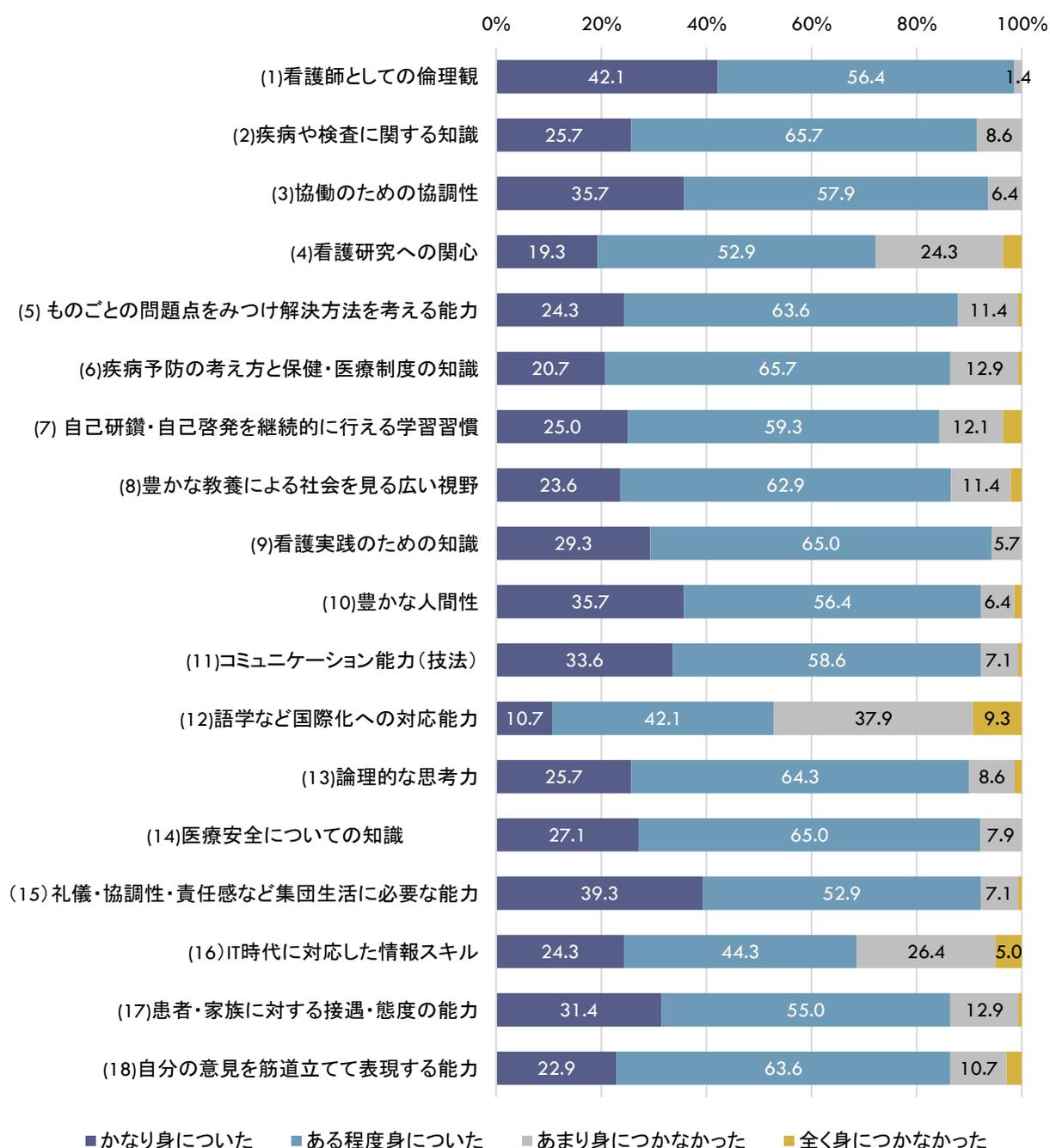
身についた能力

※2024 年度に追加された質問項目

Q18. 東京医科大学での授業や活動を通して、以下の能力を身につけることができましたか。

項目によって割合が変化するものの、ほとんどにおいて「身についた」（「かなり身についた」と＋「ある程度身についた」）とする割合が80%以上を超える。その中で低さが目に付くのは、(4)「看護研究への関心」と(12)「語学など国際化への対応能力」であり、特に(12)「語学～」は、次のQ19. カリキュラムの満足度を問う質問においても最も満足度が低い項目となっている。

【全体】

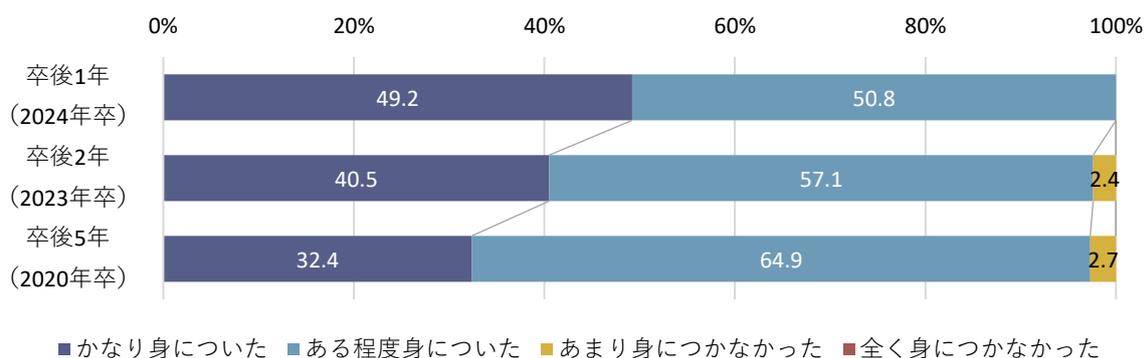


以下、卒業年ごとの結果を示す。

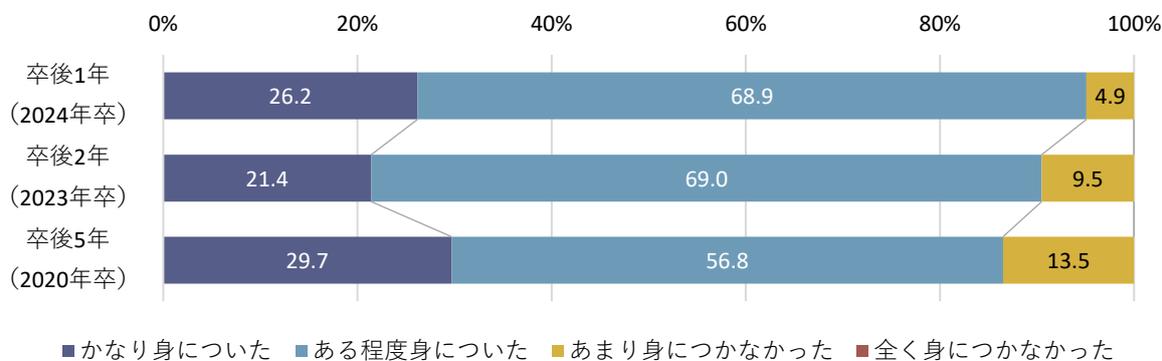
卒後2年（2023年卒）で一部下がる項目もあるが、卒業年が新しいほど「身についた」と答える割合が高い。とくに「かなり身についた」と答える層の割合が高い傾向にある。

全体では「身についた」が72.2%（「かなり身についた」19.3%+「ある程度身についた」52.9%）であった（4）「看護研究への関心」も、2024年卒では83.7%（「かなり身についた」23.0%+「ある程度身についた」60.7%）となっており、とくに「ある程度身についた」と回答した者の割合が高かった。

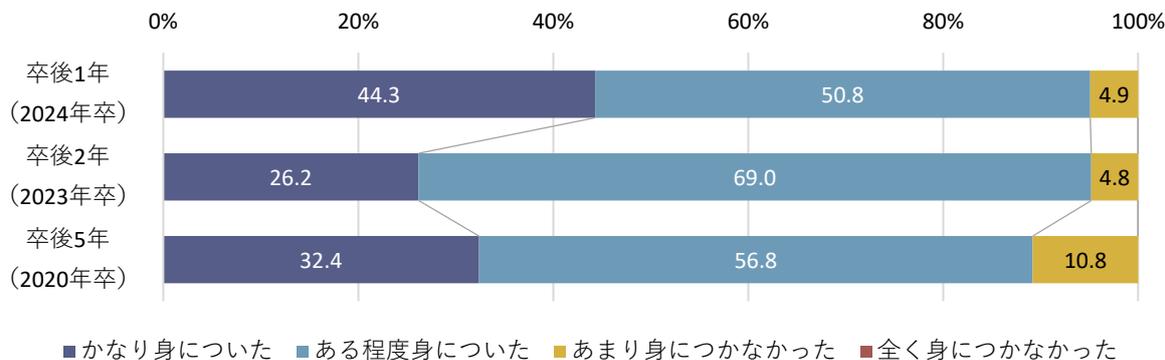
(1) 看護師としての倫理観



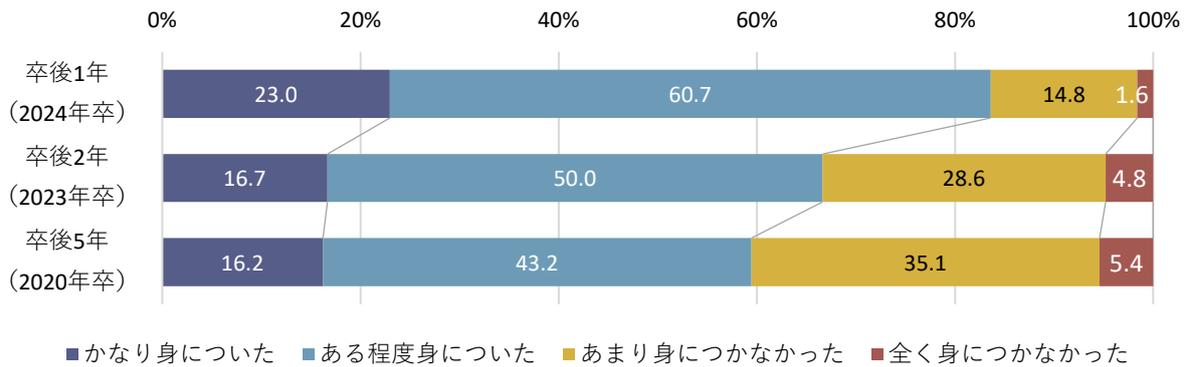
(2) 疾病や検査に関する知識



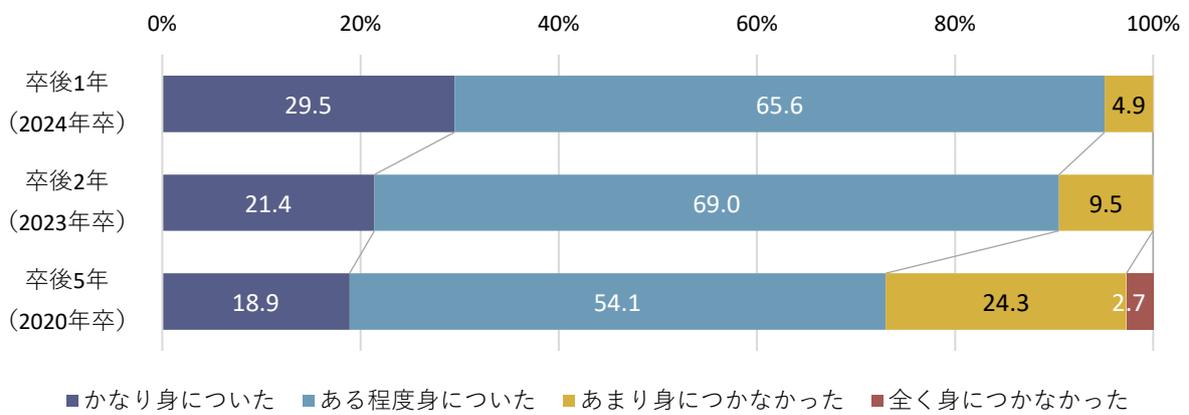
(3) 協働のための協調性



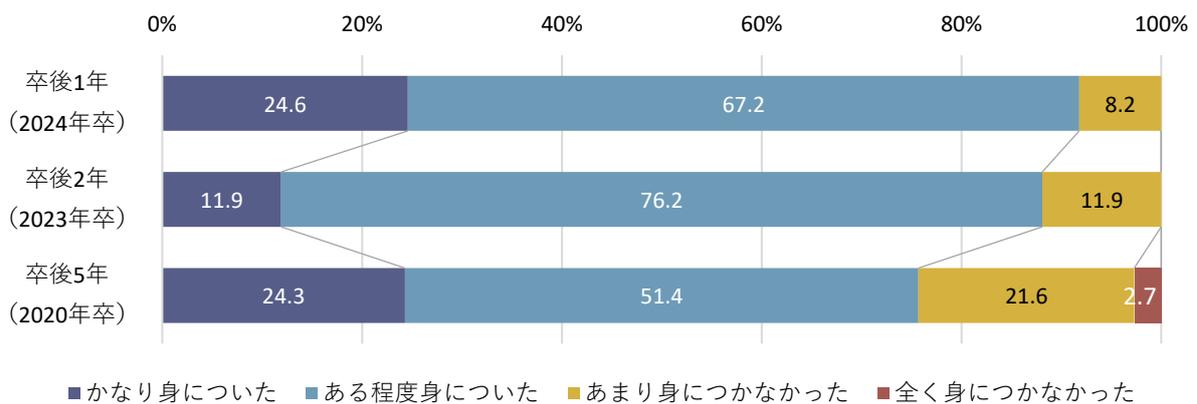
(4) 看護研究への関心



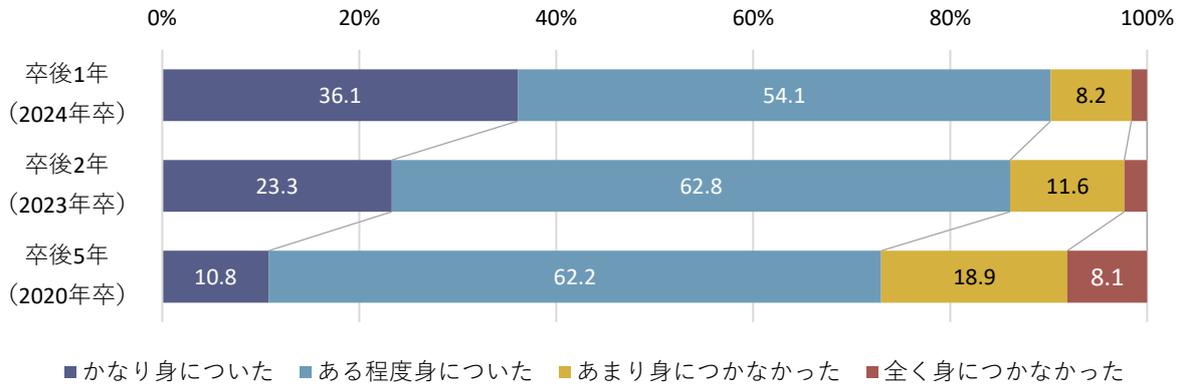
(5) ものごとの問題点をみつけ解決方法を考える能力



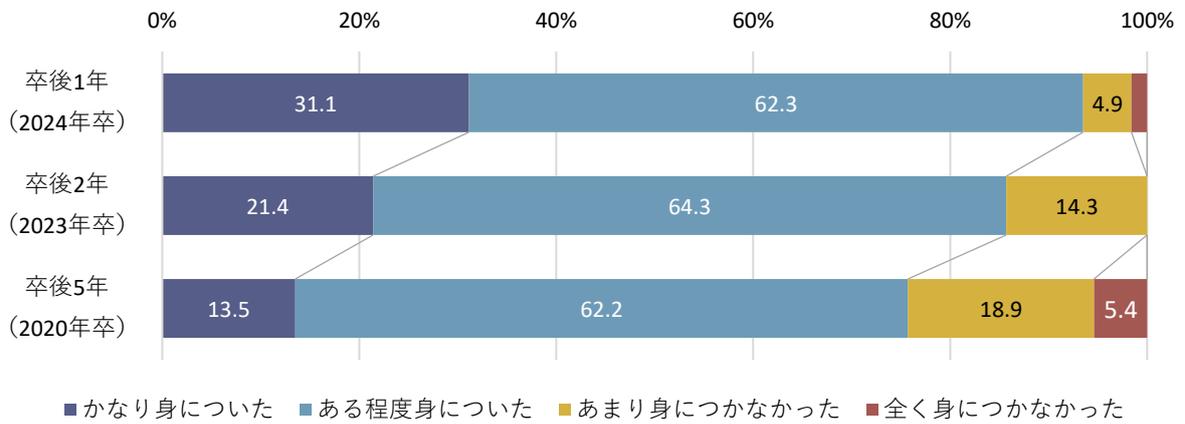
(6) 疾病予防の考え方と保健・医療制度の知識



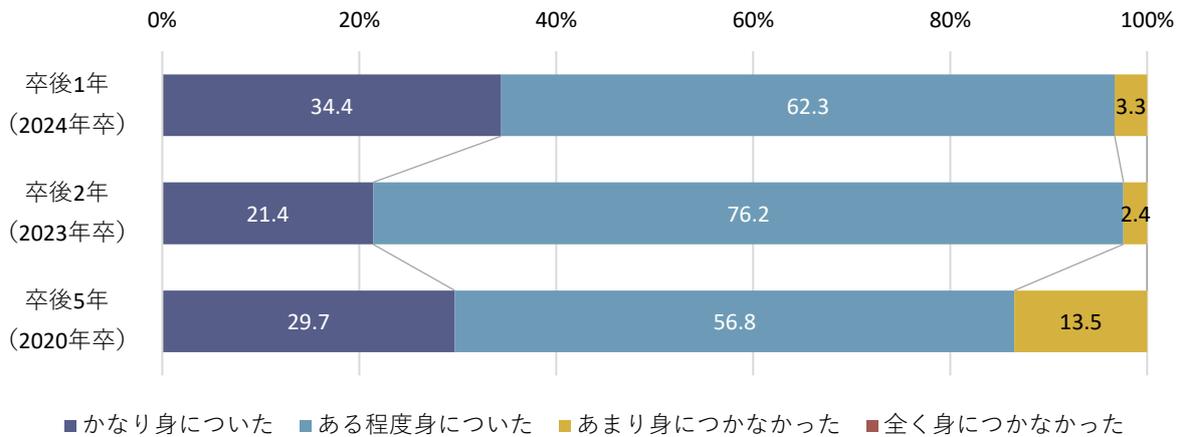
(7) 自己研鑽・自己啓発を継続的に行える学習習慣



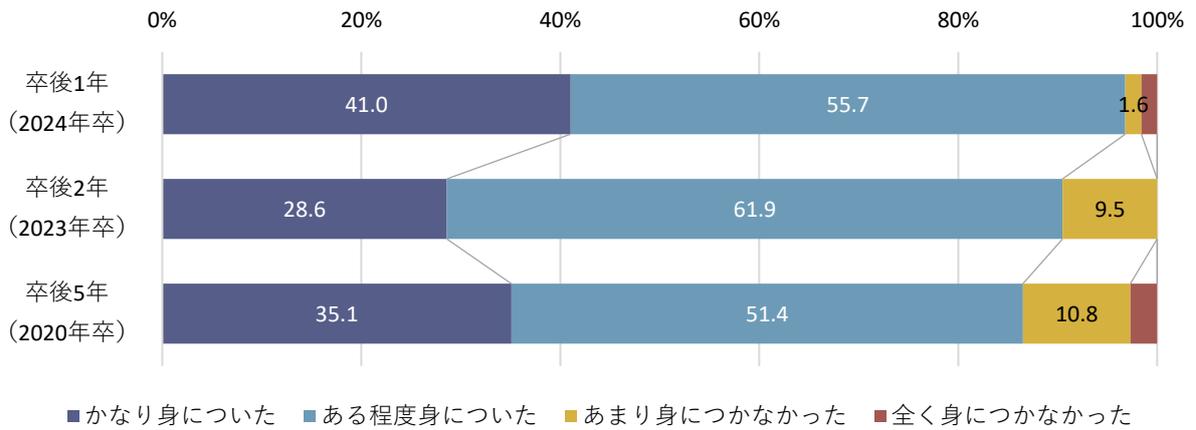
(8) 豊かな教養による社会を見る広い視野



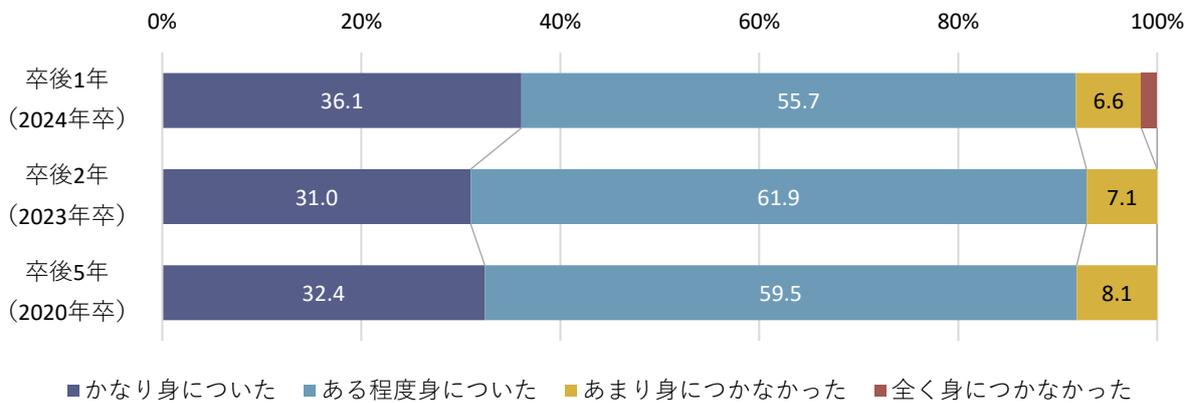
(9) 看護実践のための知識



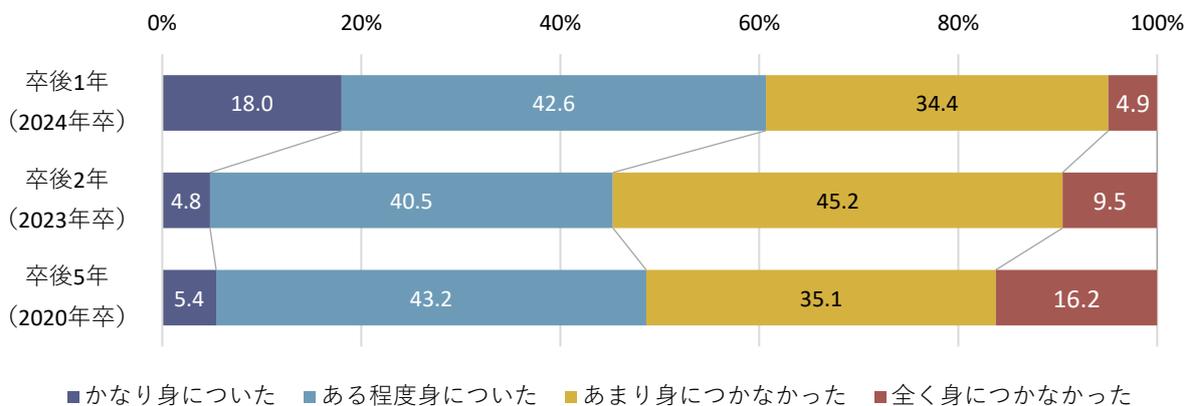
(10) 豊かな人間性



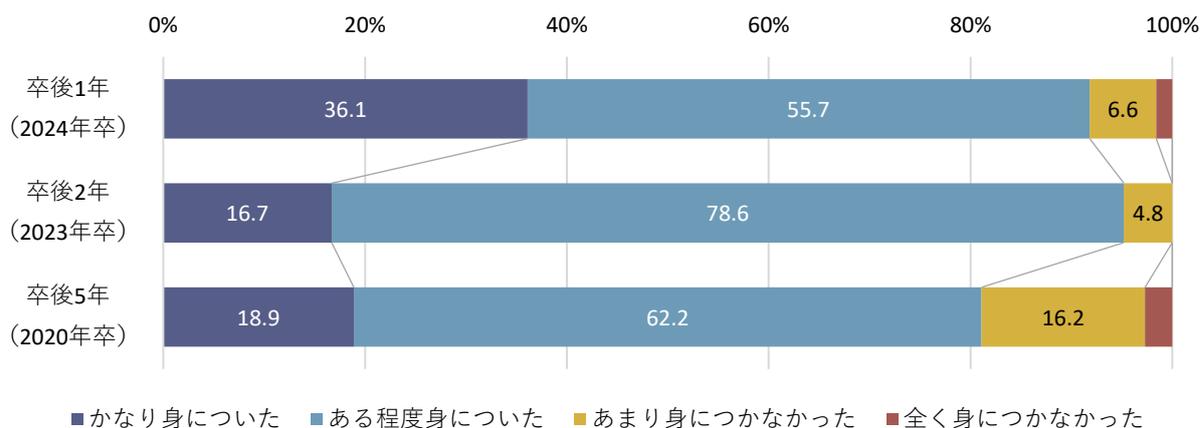
(11) コミュニケーション能力 (技法)



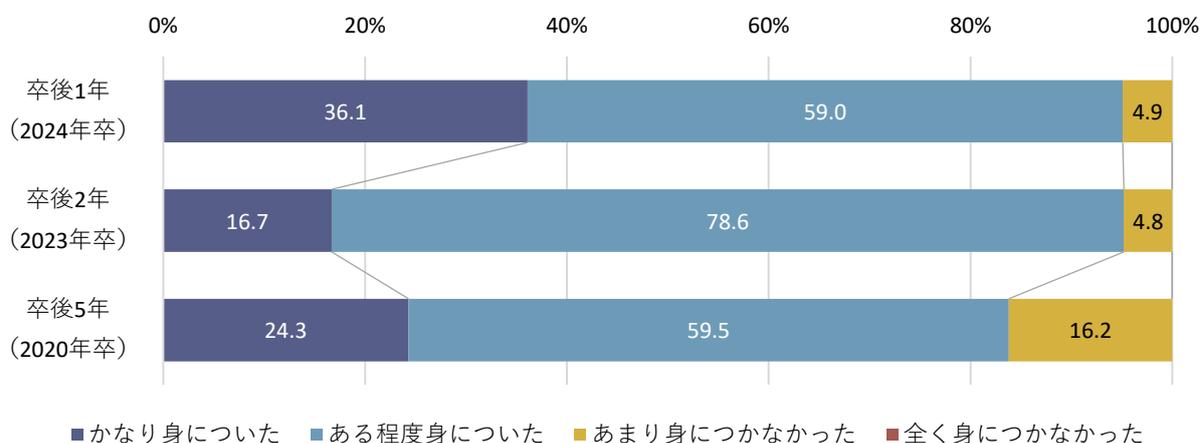
(12) 語学など国際化への対応能力



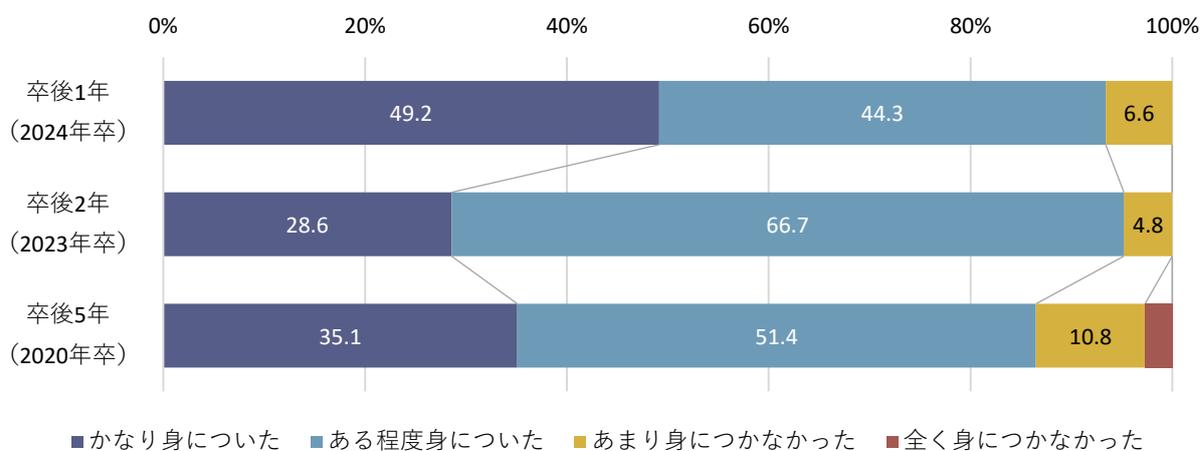
(13) 論理的な思考力



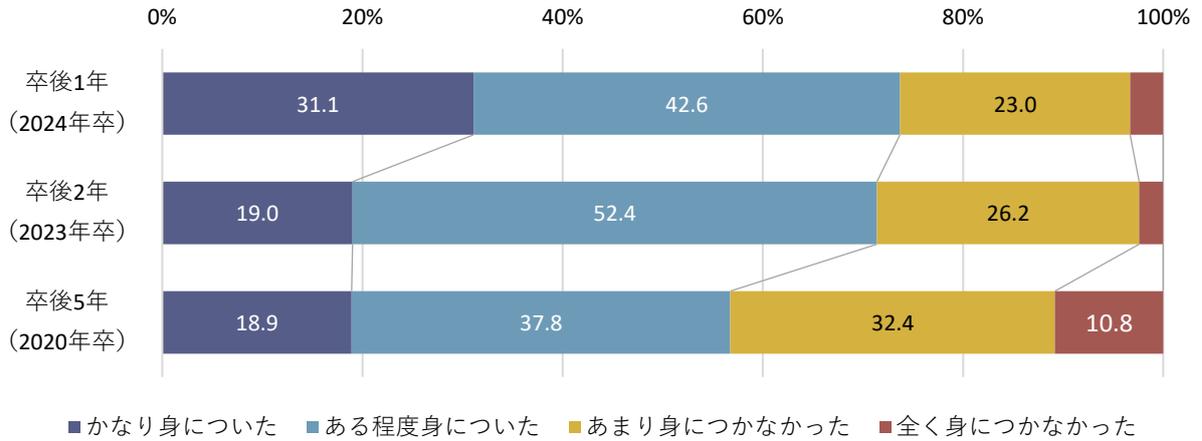
(14) 医療安全についての知識



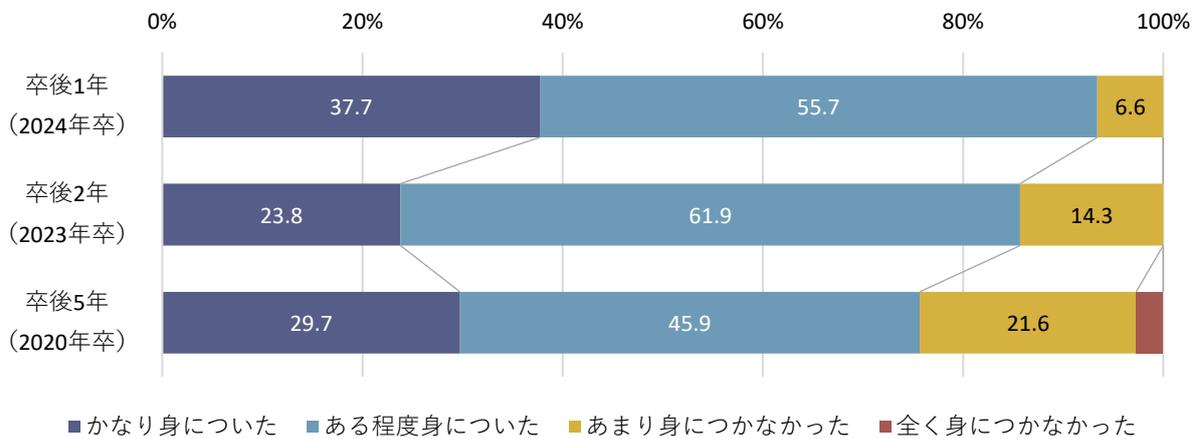
(15) 礼儀・協調性・責任感などチーム医療に必要な能力



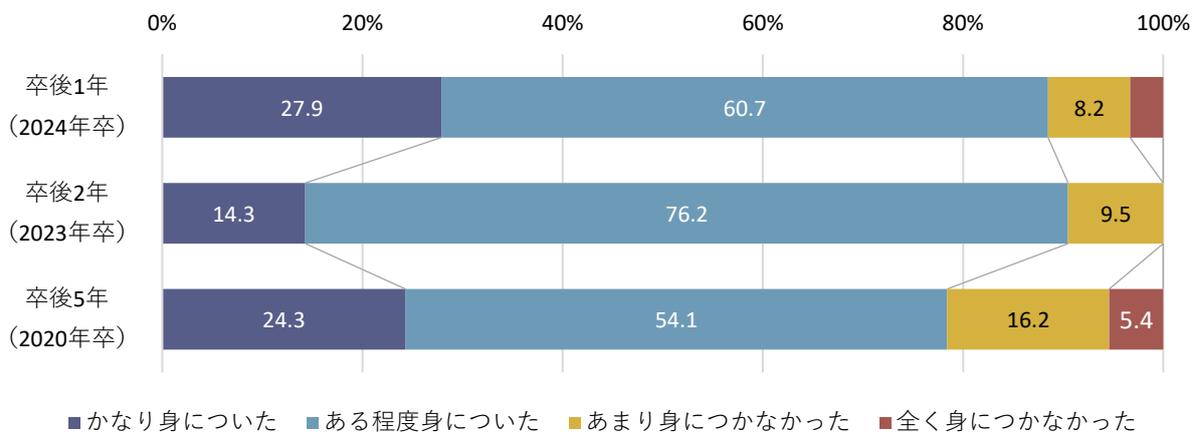
(16) IT時代に対応した情報スキル



(17) 患者・家族に対する接遇・態度の能力



(18) 自分の意見を筋道立てて表現する能力

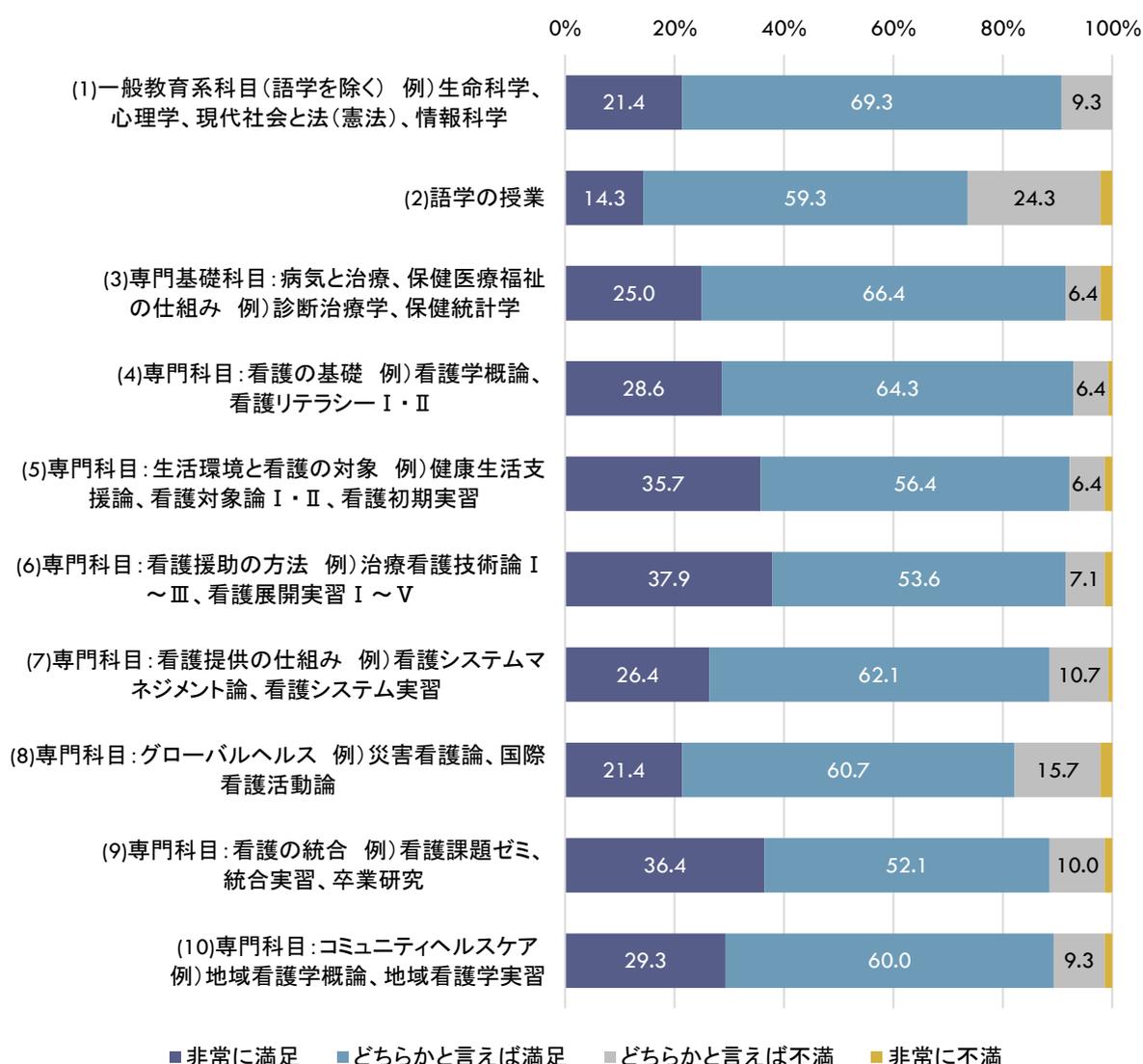


カリキュラムの満足度

Q19. 東京医科大学在学中の各カリキュラムや設備に対して、どのくらい満足しています

全体として、「満足」（「非常に満足」＋「どちらかと言えば満足」の合計）と回答した卒業生が8割を超えている。8割に届かず、「非常に満足」と回答した割合が20%を切ったのは、(2)「語学の授業」であった（「非常に満足」14.9%＋「どちらかと言えば満足」58.9%＝73.8%）。なお、前年（2024年度）の報告書では、「語学」の満足度は50.9%（「非常に満足」7.0%＋「どちらかと言えば満足」43.9%）であった。(8)「専門科目：グローバルヘルス」も、この中ではやや低いが、(2)と同じく、前年度（「非常に満足」9.6%＋「どちらかと言えば満足」47.0%）よりも満足度が高い結果になっている。

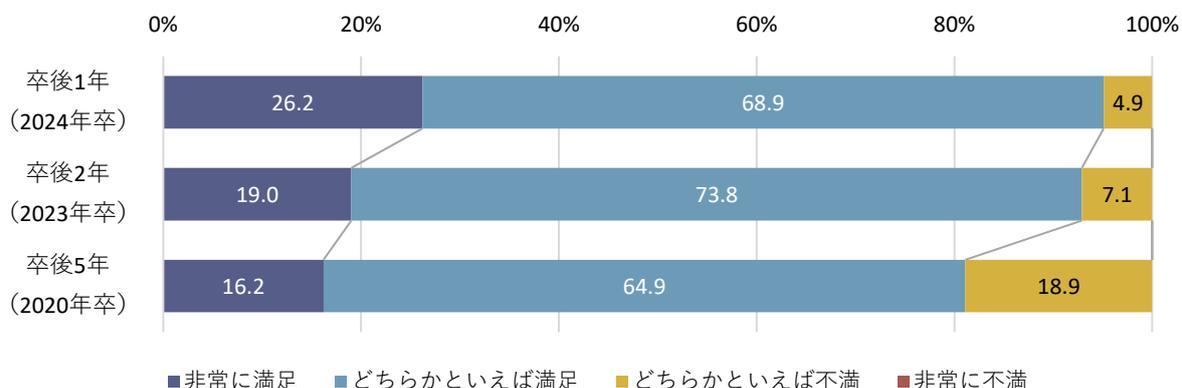
【全体】



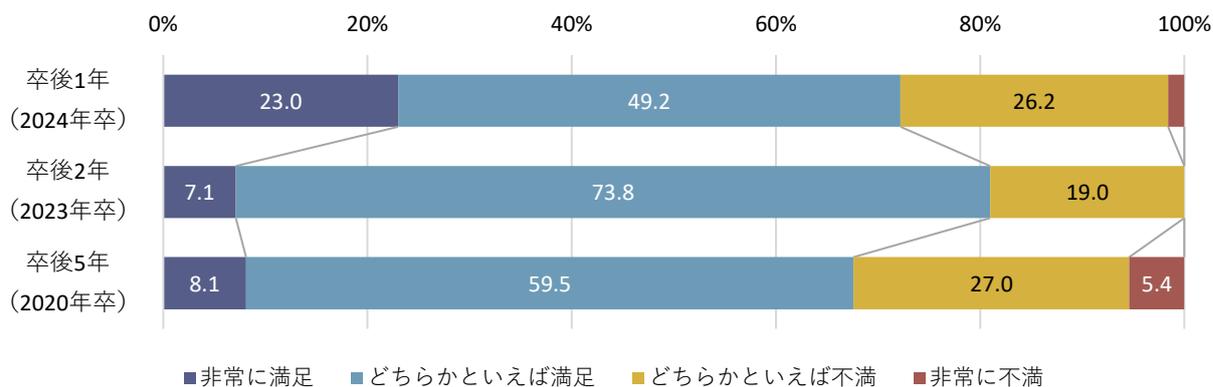
以下、カリキュラムの内容ごとに、卒業年ごとの結果を示す。

(2)「語学の授業」は、卒後1年(2024年卒)で「満足した」(「非常に満足」+「どちらかといえば満足」)と回答した者が、卒後2年(2023年卒)よりも少ないが、卒後1年では「非常に満足」と答えた者の割合が、それ以前の卒業生と比較して倍以上に高くなっている。

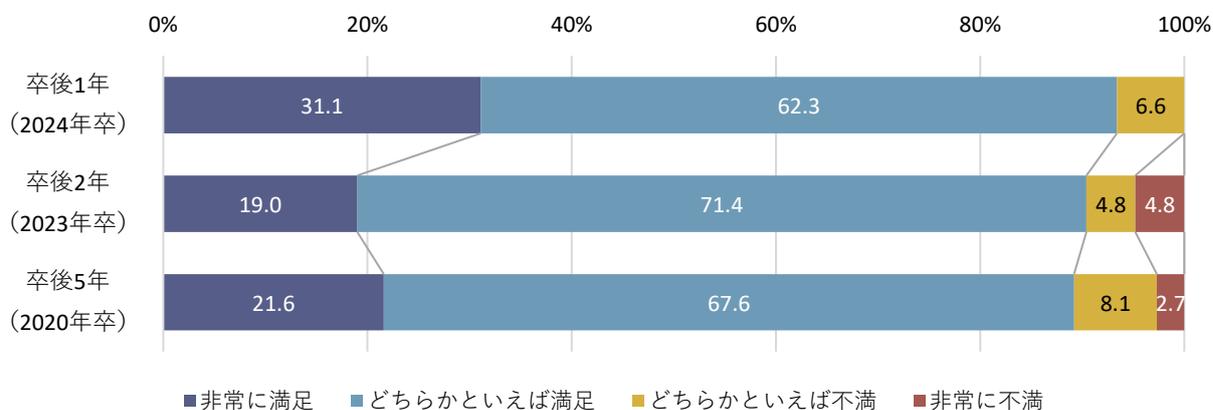
(1) 一般教育系科目(語学を除く)



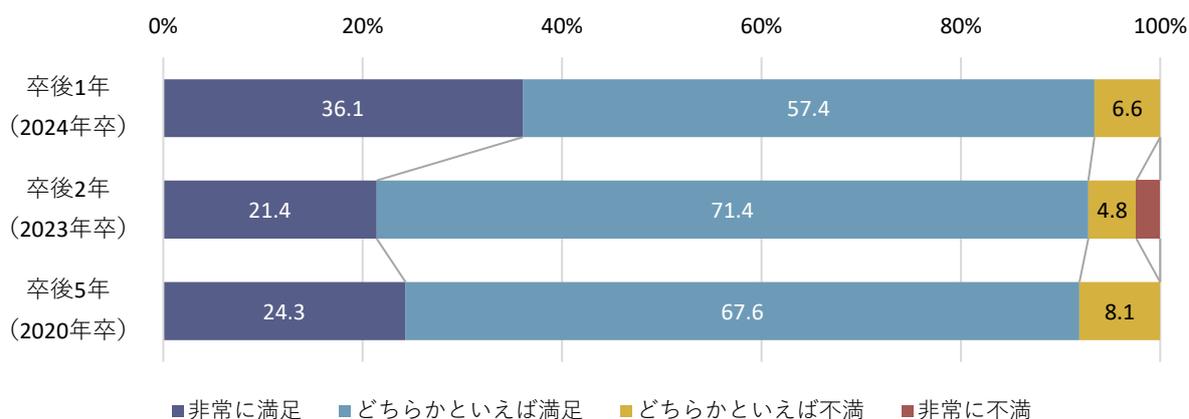
(2) 語学の授業



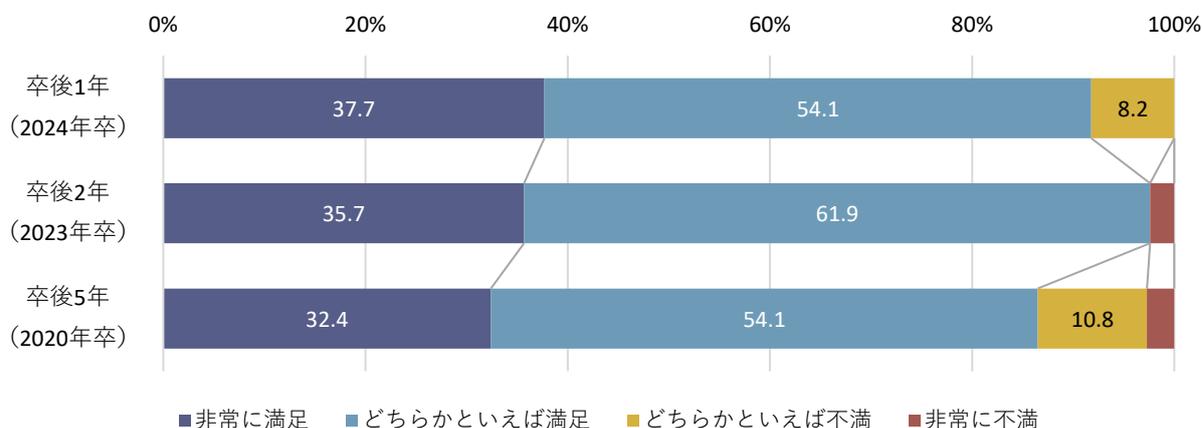
(3) 専門基礎科目：病気と治療、保健医療福祉の仕組み 例) 診断治療学、保健統計学



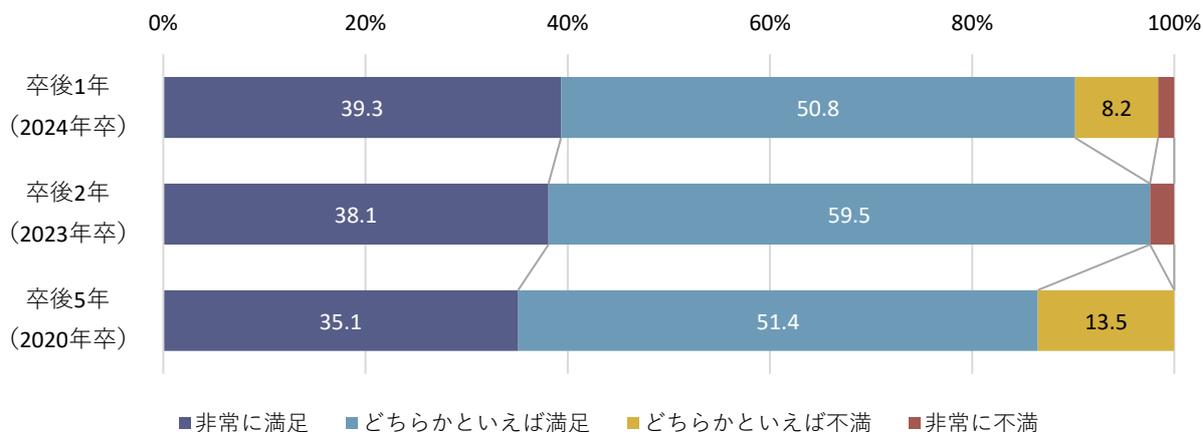
(4) 専門科目：看護の基礎 例) 看護学概論、看護リテラシー I・II



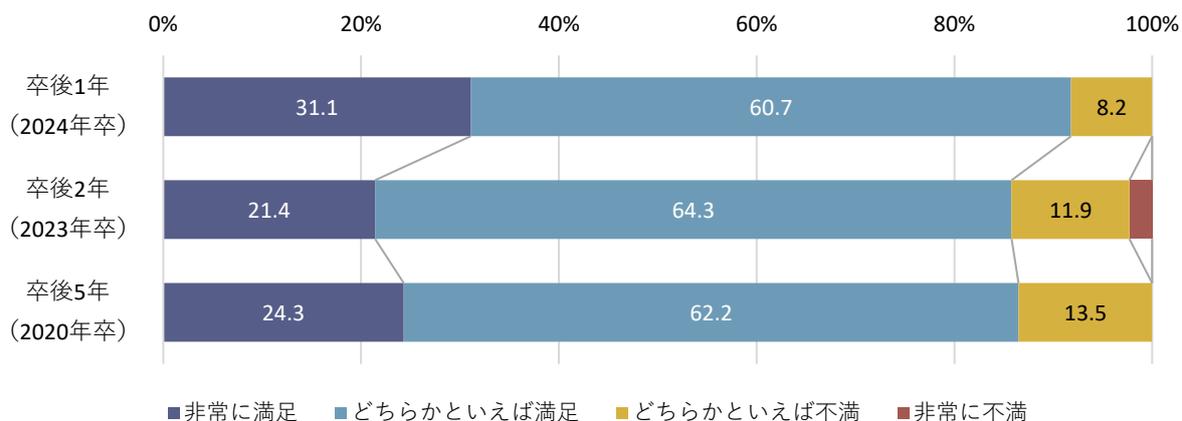
(5) 専門科目：生活環境と看護の対象 例) 健康生活支援論、看護対象論 I・II、看護初期実習



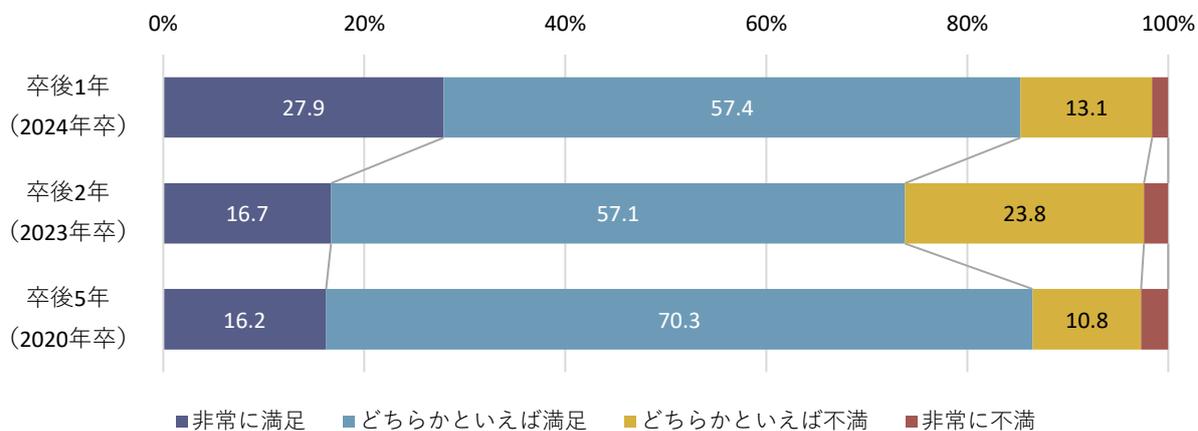
(6) 専門科目：看護援助の方法 例) 治療看護技術論 I～III、看護展開実習 I～V



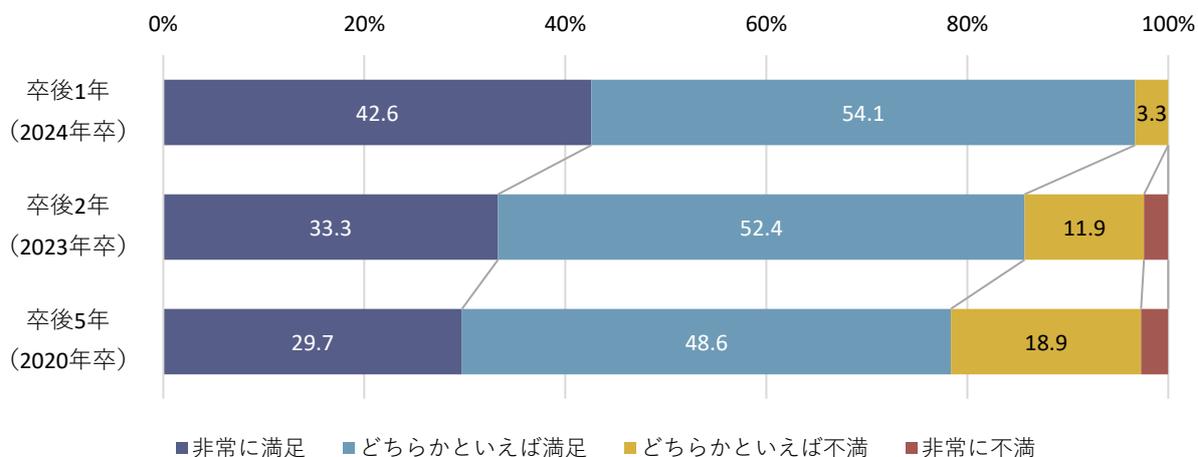
(7) 専門科目：看護提供の仕組み 例) 看護システムマネジメント論、看護システム実習



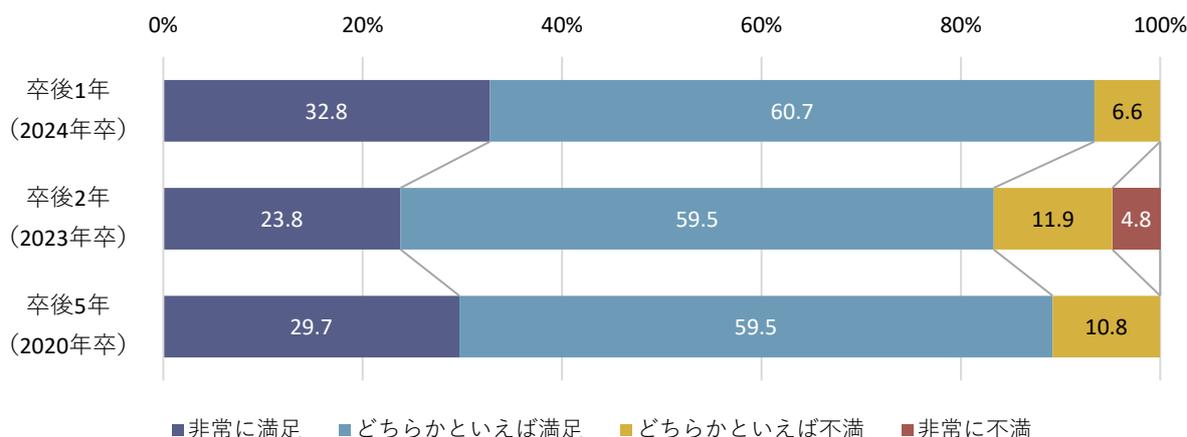
(8) 専門科目：グローバルヘルス 例) 災害看護論、国際看護活動論



(9) 専門科目：看護の統合 例) 看護課題ゼミ、統合実習、卒業研究



(10) 専門科目：コミュニティヘルスケア 例) 地域看護学概論、地域看護学実習



Q19-2. そのほか、カリキュラムや科目についてご意見があれば聞かせてください。

●実習・演習

- ・ 点滴作成や12誘導心電図の実際などの技術をしっかり学びたかった。日常生活支援に限らず臨床で使える技術も授業で学べるとよかった。
- ・ ドレーンやバルーンが入った患者の清拭や麻痺がある患者の車椅子移乗等の実際現場でよくある状態に対応出来る看護技術が大学で身に付くと良かった。
- ・ 模型を使った採血の練習が年2回等出来ると良かった。
- ・ 「阿部塾」のように看護技術が身に付く講座をもっと開催されていると良かった。
- ・ 基礎看護の演習をもっと沢山あったら良かったなど現場にでてみて感じた。

●授業やカリキュラム

- ・ 医療系大学含め他の学校の対面授業が進む中、いつまで経ってもオンラインやオンデマンド授業であったことが残念でした。
- ・ 看護師になるという意識があまりないまま知識を入れていた。そのため興味が湧かなく学習していた。患者・看護師を用いた事例等で考え、知識を入れられる学習方法を取り入れると学習意欲が高まると思います。

●その他

- ・ カリキュラムについてはありませんが、3年生の看護実習で、バランスよくリーダーを決めて欲しいです。1グループ10人以上いて1人1回リーダーをやるかやらないかのところ、7クール中3、4回リーダーをつとめ、朝早く集合し周りやメンバーの状況確認をするのが辛かったです。自主性を重んじ、学生らに決めさせるのは分かりますが、断りにくいなど関係性によってはこういった偏りが生じ得ることを把握していただきたいです。

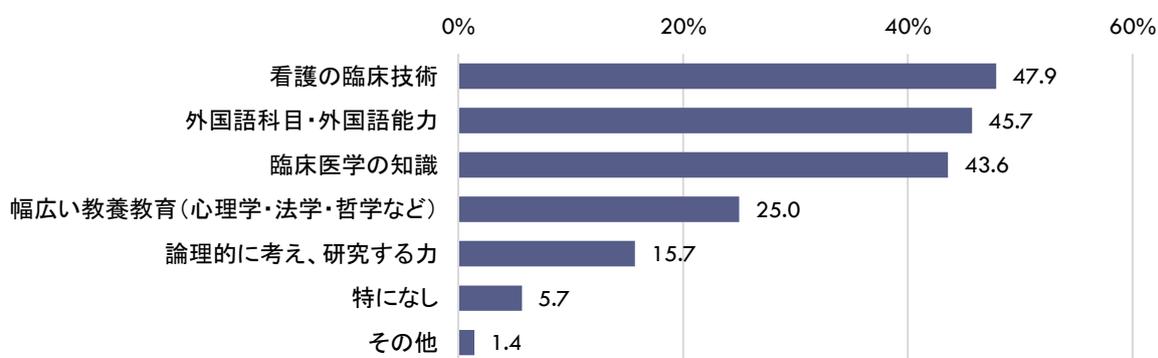
Q20. 在学中にもっと学んでおけば良かった、身につけておけば良かったことはどのようなことですか。(複数選択) ※2024年度で回答項目調整

前年度から回答項目が調整され、「看護の専門的な知識」が削除、「治療診断系や臨床医学の知識」は「臨床医学の知識」へ、「幅広い教養教育(文学・歴史など)」は「幅広い教養教育(心理学・法学・哲学)」へと変更されている。

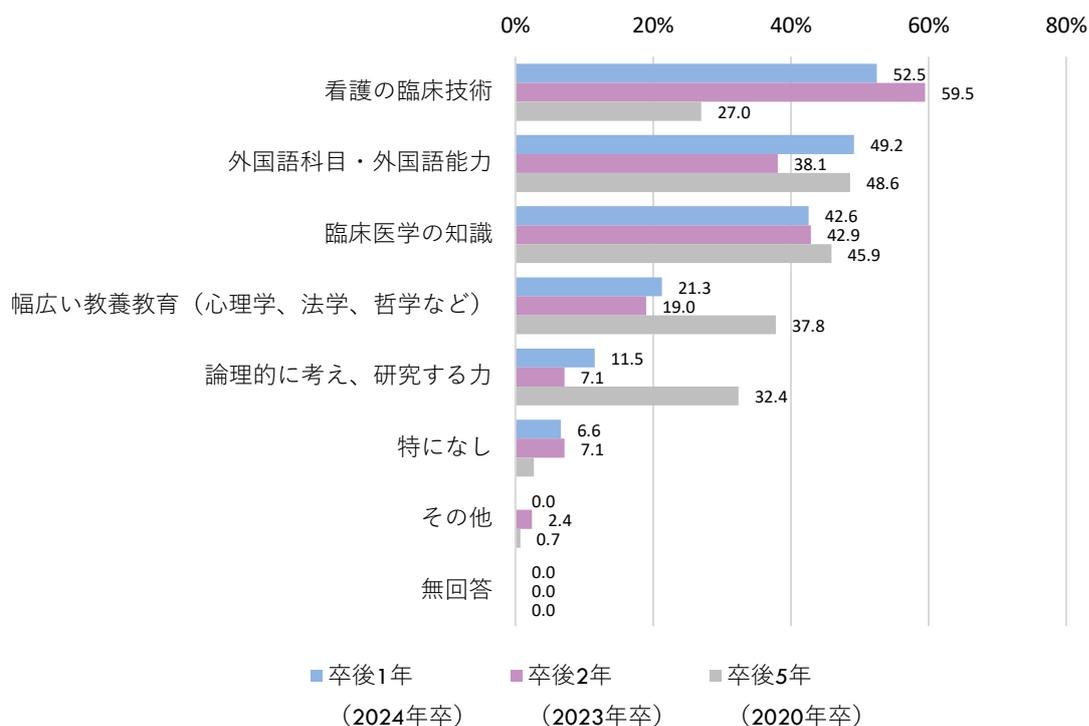
全体では、最も割合が高いのが「看護の臨床技術」であり、次いで、「外国語科目・外国語能力」、「臨床医学の知識」であった。(2023年度では、「外国語科目・外国語能力」が最も高かった)

卒業年別に見ると、卒後1年・卒後2年では、「看護の臨床技術」「臨床医学の知識」(実践的分野)をもっと学んでおけば良かった・身につけておけば良かったと感じている者が多いが、卒後5年では「幅広い教養心理」や「論理的に考え、研究する力」を選ぶ者が多くなるのがわかる。

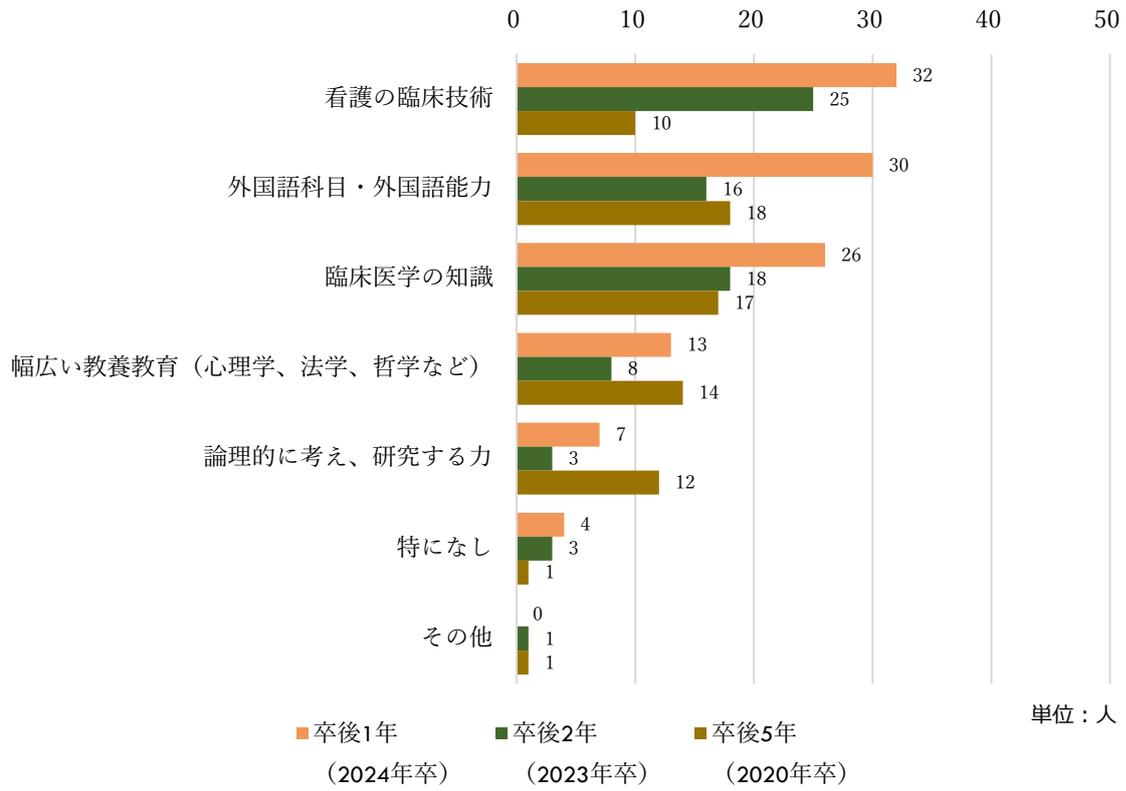
【全体】



【卒業年別】



【卒業年別人数】

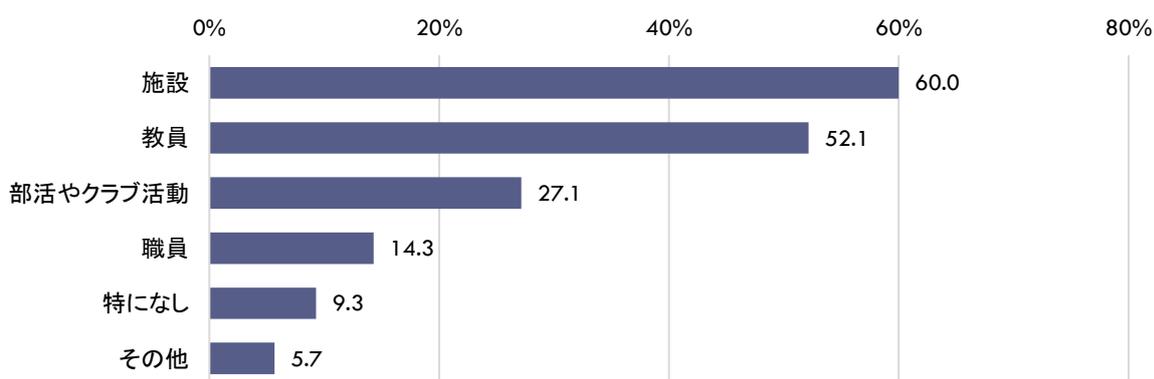


- ・ 「その他」と回答した人の自由記述（具体的に）：
卒業後の学習の方法や内容（保健師）、人間関係・上下関係

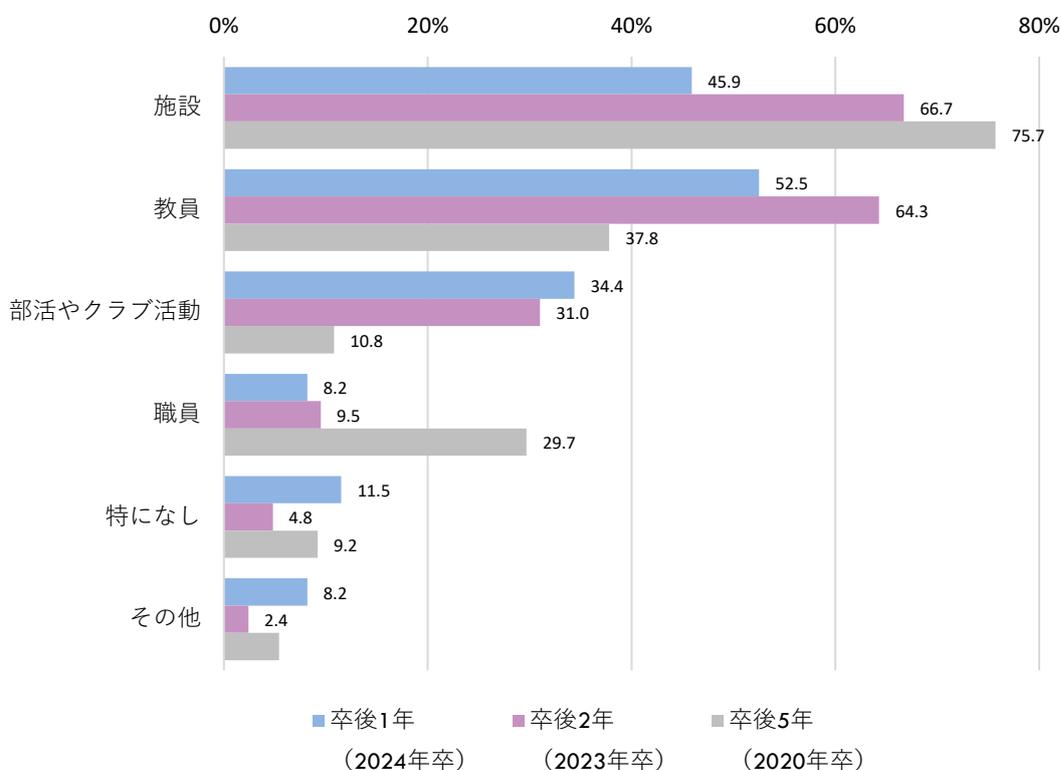
Q21. 現在、東京医科大学医学部看護学科を振り返って、良かったと思う点について教えてください。（複数選択）

全体としては、良かったと思う者の割合が高い順に、「施設」、「教員」、「部活やクラブ活動」であった。特に「施設」は全体の60.0%、教員は52.1%が良かったと回答し、半数を超えている。卒業年別で見ると、「施設」を良かったと評価する者が年度ごとに減少している。第1看護学科棟ができた2018年卒業生以降、前年度の報告書でも減少傾向が見られるが、建物自体の経年によるものと推測される。

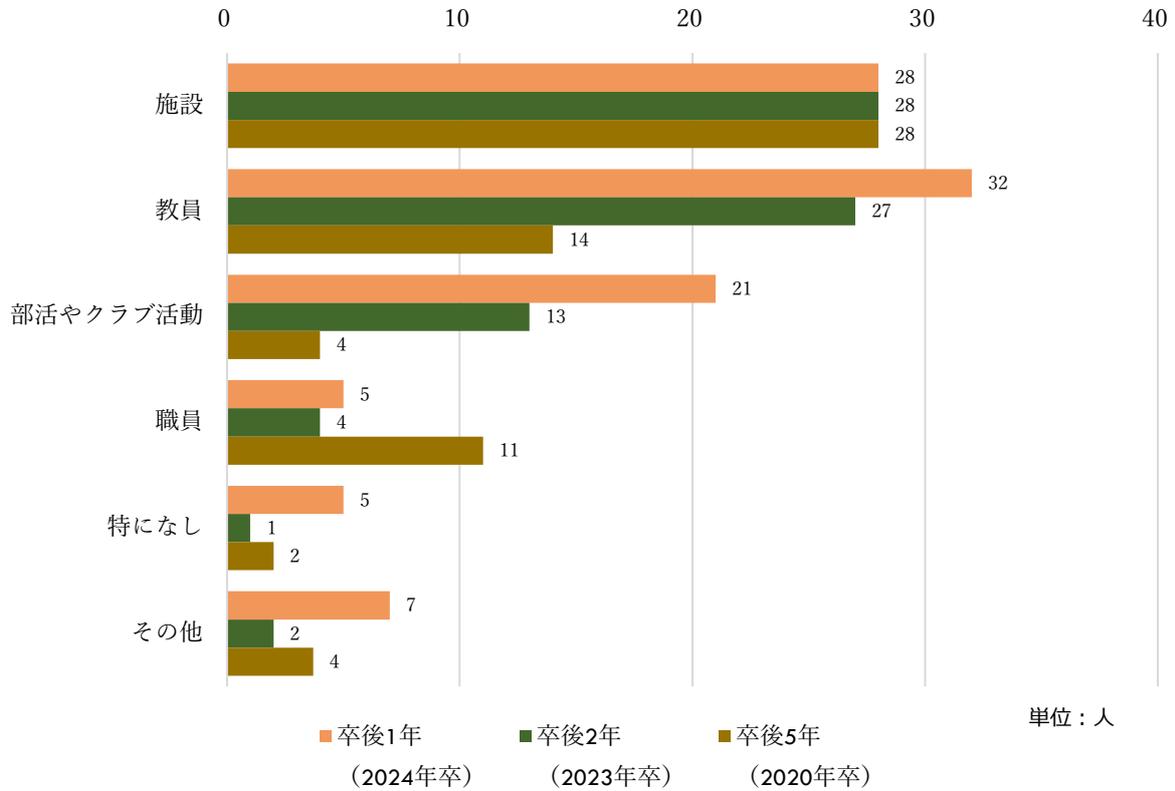
【全体】



【卒業年別】



【年度別人数】



「施設」について良かったと思う点 (具体的に)

●学内環境

- ・ 校舎・施設が綺麗 (4)
- ・ 新しく綺麗 (3)
- ・ 綺麗で学習環境が整っていた。
- ・ 全てが綺麗であり過ごしやすい。
- ・ 教室が綺麗で設備が整っていた。
- ・ 施設がきれいで物品も十分だった。
- ・ 清潔であり使用しやすかった。
- ・ 設備が整っており、清潔感がある。
- ・ きれいな環境で学ぶことができたことに満足している。
- ・ 単に施設がきれい、というのは多くの時間を過ごすために大切だったと思う。

●シミュレーターや演習室

- ・ シミュレーターを用いた授業 (2)
- ・ 実習施設が綺麗。
- ・ 設備が新しく快適だった。

- ・ シュミレーションセンター。
- ・ シュミレーションの施設が臨床を想定できてよかった。
- ・ シミュレーションや物品などが豊富で、学習の中で触れる時間も多かった
- ・ 急性期の病院で実習できたこと。
- ・ 最新技術があり実践的だった。
- ・ 人形を用いた設備がとてもありアリティがあり、実践に行かせたと思っています。
- ・ 建物が新しく清潔が保たれている シミレーションルーム等の設備が充実している。

●キャンパスのサイズや位置

- ・ 立地。

●附属病院

- ・ 大学病院で実習ができたこと。

●自習室や図書館

- ・ 自習スペース。
- ・ 夜遅くまで学校を使えるところ。休日も利用できるところ。

●PC や周辺機器

- ・ iPad を利用した学習。
- ・ パソコンが使える。

「教員」について良かったと思う点（具体的に）

●接し方・態度

- ・ 親身に相談に乗ってくださった。
- ・ 親身になって下さる教員がいた。
- ・ 親身になって下さる先生が多かったです。
- ・ 学生に親身に話を聞いてくれる。
- ・ 優しくかった。親身になって話を聞いてくれた。
- ・ 実習やゼミで真摯に相談に乗ってくださった。
- ・ 担任の先生を始め、親身になって相談にのってくださった。
- ・ 優しく相談に乗ってくれて小さな失敗なら笑顔で受け止めてくれる。
- ・ ゼミの担当教員が相談しやすかった。
- ・ あべ先生が好きでした。優しいし、人として尊敬。
- ・ 学生に寄り添って対応していただいたと感じる。真摯に向き合っていて本当に感謝しています。
- ・ 熱心な先生がいてくださり心強かった。
- ・ 先生との距離が近いところ。
- ・ 一人一人を覚えてくれている。
- ・ 親身になってくれる方がたくさんいた。

- ・ 優しい先生が多かったので看護にさらに魅力を感じた
- ・ 実習など大学外で学習する際に、看護学生の学ぶ環境が守られていたと卒後感じました。
- ・ 保健師の就職活動において、全面的にサポートをしていただいたため。
- ・ 臨床経験での話をしてくださったこと フレンドリーな方はすごく接しやすかったこと。
- ・ 保健師コースの先生方に大変お世話になった。
- ・ みなさん優しく質問しやすい環境だった。また先生方が看護師としての経験談をたくさんお話ししてくださり看護師という職業への憧れを持ったまま学ぶことができた。
- ・ 親身になって、様々なことを教えていただいたこと。看護の大事な考え方を教えてくださったこと。
- ・ 思いやりがある教員が多かったです。教員の経歴についてもっと知る機会が欲しかったです。
- ・ 4年次の担任がとても親身になってくださり、勉強だけでなく最後の学生生活だからとバイトや遊びも優先させてくださったこと。また入職して患者さんとしてお会いした際に「元気？」と声をかけてくださり一年目で不安な中、とても心が温かくなった。

●担任制・ゼミ

- ・ 担任制など手厚い支援がある。
- ・ 少人数制のグループワークでの指導や担任性で気軽に相談できる環境がいつもあったところ。
- ・ ゼミで深く学ぶことができたのは、先生のおかげだと思っています。また、進学に関しても様々調べていただいたり添削をして下さったり、感謝しています。

●授業の分かりやすさ・専門性

- ・ 各分野で活躍されている教員からの授業は学びが多かった。(2)
- ・ 高度な専門技術。
- ・ 実習中に疾患や看護について関連性を持たせながら指導をしてもらえた。
- ・ 実務の経験談を交えながら教えていただきました。

●授業の進め方

- ・ 親身な指導をしてくれた。
- ・ 卒業研究の際に親身に寄り添い学習を進めてくれた。
- ・ 実習中も頻回にラウンドして、アドバイスしてもらえたところ。

●卒業後のつながり

- ・ 先生が卒業後も話をきいてくれる。
- ・ 卒業してからも実習の付き添い教員で来てくれる先生は声をかけてくれたり安心感がある。働いても教えてくれた先生が見守ってくれるのが嬉しい。

「職員」について良かったと思う点（具体的に）

- ・ 相談しやすい雰囲気。
- ・ 学務課の方が皆親切だった。

- ・ みなさん優しくて話しやすかった。
- ・ 話しかけやすかった。
- ・ どんなことでも親身になって手続き等の相談に乗ってくれる。
- ・ 親切に対応してくださる。

「部活やクラブ活動」について良かったと思う点（具体的に）

●人との交流、繋がり

- ・ 趣味ができた。素敵な仲間ができた。
- ・ 医学科との交流。
- ・ 医学部や看護学科の先輩方と交流が持てる。
- ・ 医学科との交流もあり交友関係が広がった。
- ・ クラブを通して他の学生と仲良くなれた。
- ・ 先輩や後輩との交流を深め、視野を広げることができたため。
- ・ 卒業後も助けになってくれる先輩方との繋がりができた。
- ・ 大学生活の大部分を一緒に過ごした同期先輩後輩と出会えた、卒業後も西新宿の病院で一緒に働けたりと親密な関係があること。
- ・ バスケットボール部に所属しており、OB・OGの先輩方との関わりがあったため進路についてお話を聞いたこと。
- ・ コミュニティが広く、年代問わず卒業後も関わりのある方が多く、良いと思いました。

●充実した学生生活

- ・ 良い部員に恵まれ、充実した学校生活を送ることができた。

●その他

- ・ 楽しかった。
- ・ 楽しい、活発。
- ・ 一生懸命取り組める環境。
- ・ 上下関係が厳しく社会で役に立つ最低限の礼儀作法を身につけることができた。医学科の友人ができた。
- ・ 部活を通して仲間との関わりから主体性や協調性が得られたこと。
- ・ 看護学部でもプレイヤーとして参加できた。

「その他」、看護学科を振り返ってよかったと思う点（具体的に）

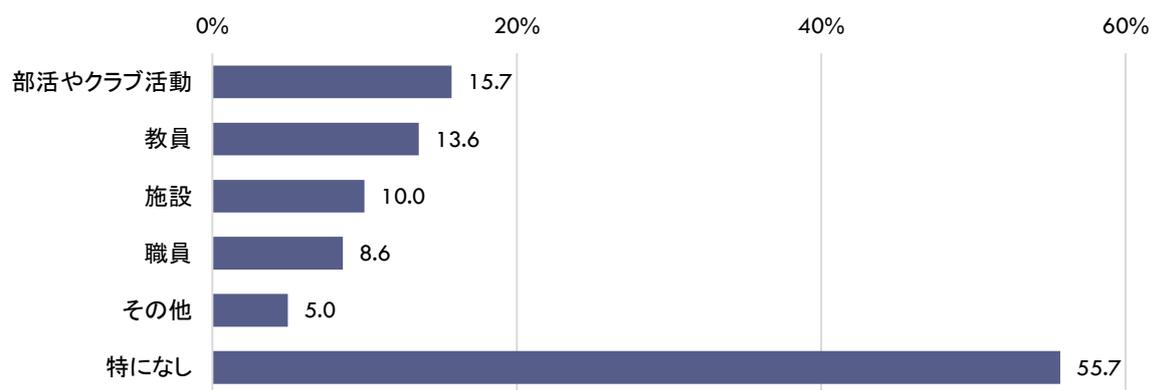
- ・ 同級生。
- ・ ラオスへの研修

Q22. 現在、東京医科大学医学部看護学科を振り返って、改善すべきと思う点について教えてください。（複数選択）

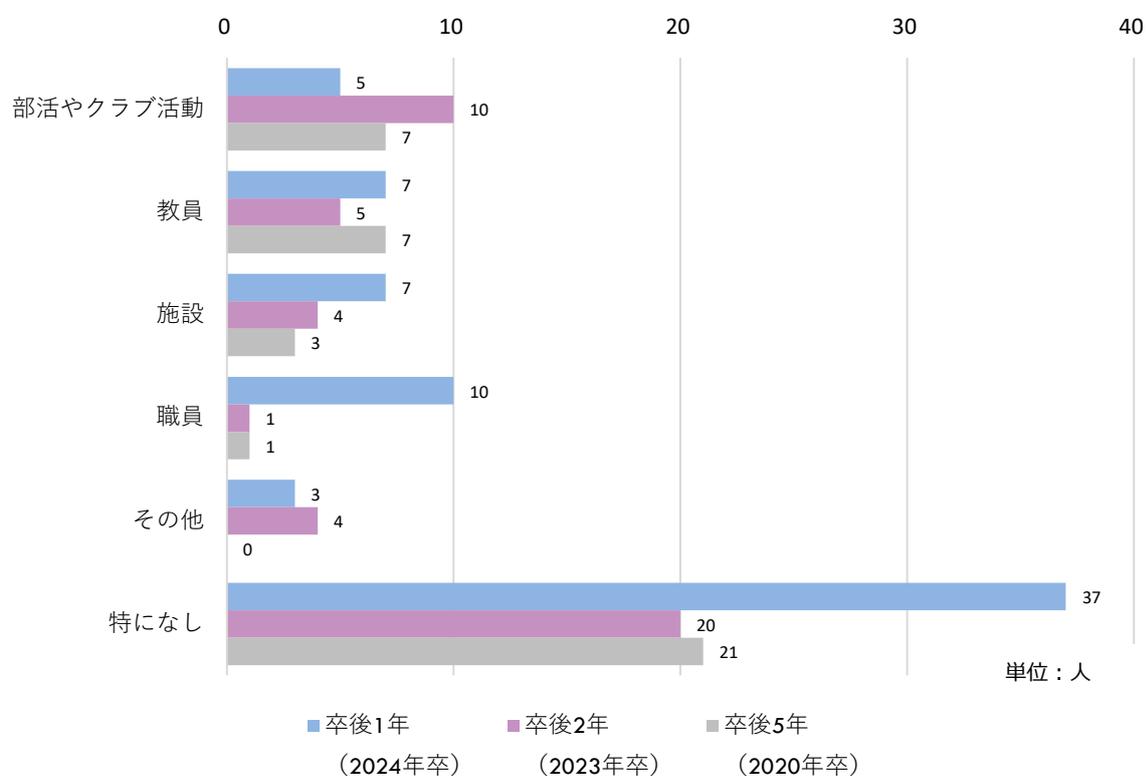
過半数（55.3%）が、「特になし」と回答した。このほか全体として、改善すべきと思う者の割合は、高い順に「部活動やクラブ活動」、「教員」、「施設」、「職員」という結果だった。

卒業年別でみると、2020年・2023年卒は「部活やクラブ活動」について改善すべきと回答している者が19～23%に及んだが、2024年卒では8%と大きく減少している。2024年卒生で改善を望む声が多かったのは「職員」（16.4%）であった。

【全体】



【卒業年別】



「施設」についての改善点（具体的に）

●校舎や自習室

- ・ 古い。
- ・ 図書館の開館時間が短くなる、文房具の貸し出しがなくなるなど最初は行われていたことが十分な説明がないまま途中で無くなったため不満であった
- ・ コロナ禍で教室が使えない時、勉強する場所にすごく困った。

●設備や機器類

- ・ エレベーターの使用（2）：
学費を払っているのに学生がエレベーターを使えないのは疑問でした。・学生エレベーター禁止でなければもっと良いと思います
- ・ トイレが臭い時がある。
- ・ 第二看護学科のトイレが少ない。
- ・ ロッカーがいつも混み合うのもっとロッカーの数を増やすか分散して欲しい。
- ・ 白衣に着替える建物と演習をする建物が別で屋根もなく、悪天候の日は負担が大きかった。
- ・ 生協など、学用品や軽食を買える場所が欲しかった。コンビニは近いが白衣で学外に出れず、不であった。

●その他

- ・ 学食（2）
- ・ 当日コロナ禍の影響か、食堂が閉鎖されてから卒業までずっと使用できなかったのが残念でした。

「教員」についての改善点（具体的に）

●全般的な改善点

- ・ 教員によって寄り添いが無い先生がいた。
- ・ 実習など、自分のグループではなくても、ハラスメントの話を聞くと不安になります。
- ・ 新任の先生の肩身が狭そう。
- ・ 実習担当の教員の中には自分がその診療科を知らないから他に聞いて、という対応をされたことがありました。そのため病態の理解には私を含めメンバーも苦戦しました。先生方もご経験のない診療科で実習担当になることはあると思いますが、その面でのサポートがもっとあると良いのではないかと思いました。
- ・ 変更点を直前に連絡してきたにも関わらず課題を受け付けない等理不尽な場面が多々あってやりづらかった。

「職員」についての改善点（具体的に）

- ・ 学務課の職員さんの対応について不満に思うことが多々ありました。

- ・ 事務職員の対応。用があつて訪室しており、声もかけているのに誰かが対応してくれるだろうと無視されることが多々あつた。
- ・ 融通のきかなさ。
- ・ 感じの悪い方がいた。
- ・ 何か困つた時などに事務所に向かつて、挨拶がなかつたり見て見ぬふりされることが多々あつたのが寂しかったです。
- ・ 職員の機嫌が悪い。入学前書類に不備があり丁寧に手紙をつけたが変化なく不信感を抱いた。
- ・ 事務の人達の仕事が非常に雑。
- ・ 学務課の通知等対応が遅め。成績表間違えて違う人に送るなどのミス。

「部活」についての改善点（具体的に）

- ・ 医学科メイン。
- ・ サークルがあつたら良かった。
- ・ 看護学生にもマネージャーでなく選手としての権利を与えてほしい。
- ・ 看護学科はほとんどマネージャーとしてしか活動できない。
- ・ 看護学科が部員として入部できる部活をもっと増やして欲しい。
- ・ 数が少なかった、医学部しか入らない部活があつて不便だった。
- ・ 看護学科と医学科の部活動を合同にする必要が無いと思う。
- ・ 人数制限があつて入りたい部活に入れなかつた

「その他」看護学科を振り返って、改善すべきと思う点（具体的に）

●授業やカリキュラム

- ・ 臨床現場で頻回に使用するアセスメントについて更に多く学びたかつた。
- ・ リモート授業時代に課題が夜中に出され提出期限が翌日になっていたり、授業によっては一回や二回欠席しただけで落単した生徒がいた点。
- ・ もっと実践に活かした技術を学んでおきたかつたです。実習での患者さんの運もあると思いますが、臨床にでてから初めて男性の陰部洗浄をすることになったため、学生のうちに経験できてたらと最初は思いました。

●その他

- ・ 自習室。

Q22. 現在、東京医科大学医学部看護学科を振り返って、総合的にどのように感じていますか。

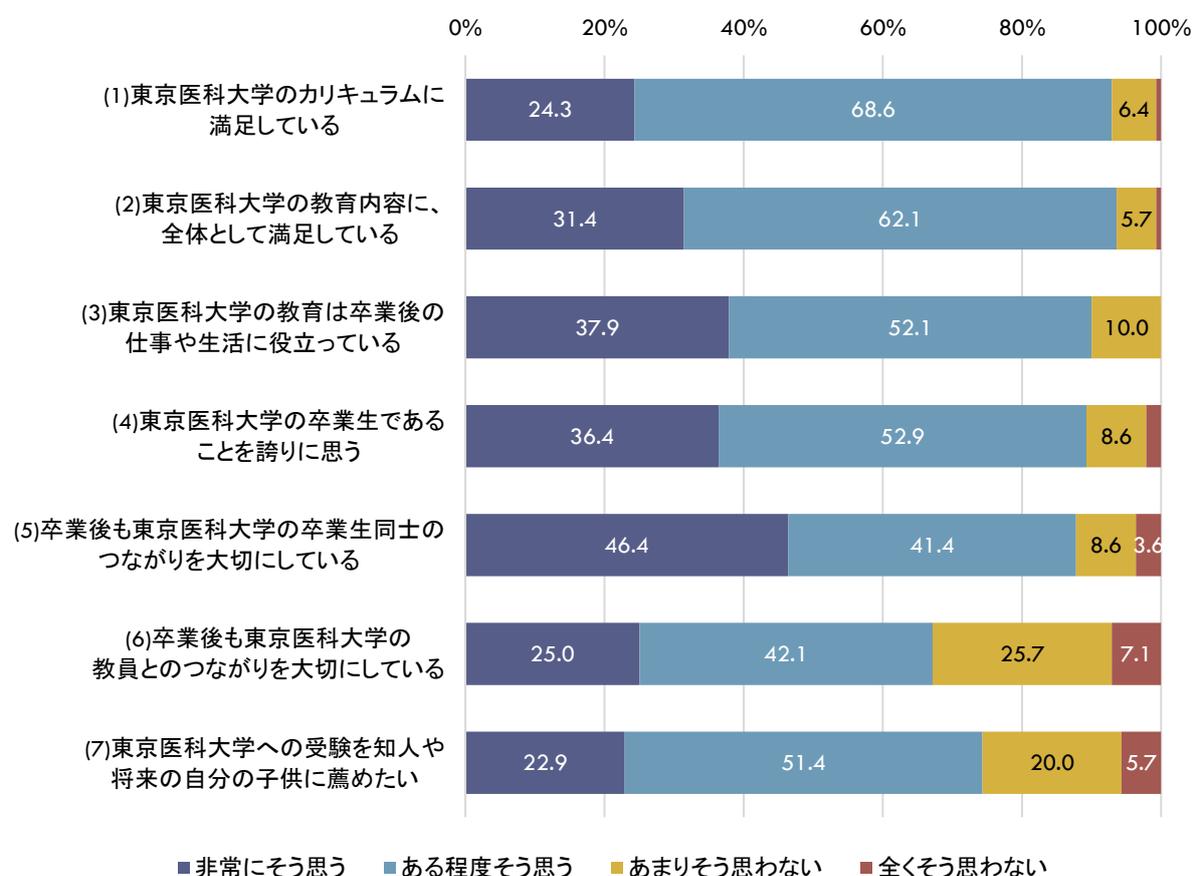
前年度から回答が追加された項目である。(4)「東京医科大学の卒業生であることを誇りに思う」(5)「卒業後も東京医科大学の卒業生同士のつながりを大切にしている」(6)「卒業後も東京医科大学の教員とのつながりを大切にしている」の3つが追加項目となっている。

全体としては、(1)「カリキュラムに満足している」、(2)「教育内容に、全体として満足している」、(3)「教育は卒業後の仕事や生活に役立っている」、(4)「卒業生であることを誇りに思う」(5)「卒業生同士のつながりを大切にしている」について、「非常にそう思う」「ある程度そう思う」を合計した割合が85%を超えた。とくに(5)の卒業生同士のつながりの強さが顕著である。

一方で、(6)「卒業後も東京医科大学の教員とのつながりを大切にしている」、(7)「東京医科大学への受験を知人や将来の自分の子供に薦めたい」については、「思わない」「あまりそう思わない」+「全くそう思わない」と回答した割合が(6)では32.8%、(7)では25.7%と、他の項目よりも3割程度を占める結果となった。

卒業年別にみるとばらつきはあるものの、すべての項目において、卒業年が新しいほど「非常にそう思う」「そう思う」と回答する卒業生の割合が高くなる傾向がある。とくに(7)「東京医科大学への受験を知人や将来の自分の子どもに薦めたい」については、2020・2023年卒では「非常にそう思う」が16%であったのが、2024年卒では32.8%と倍に増加している。

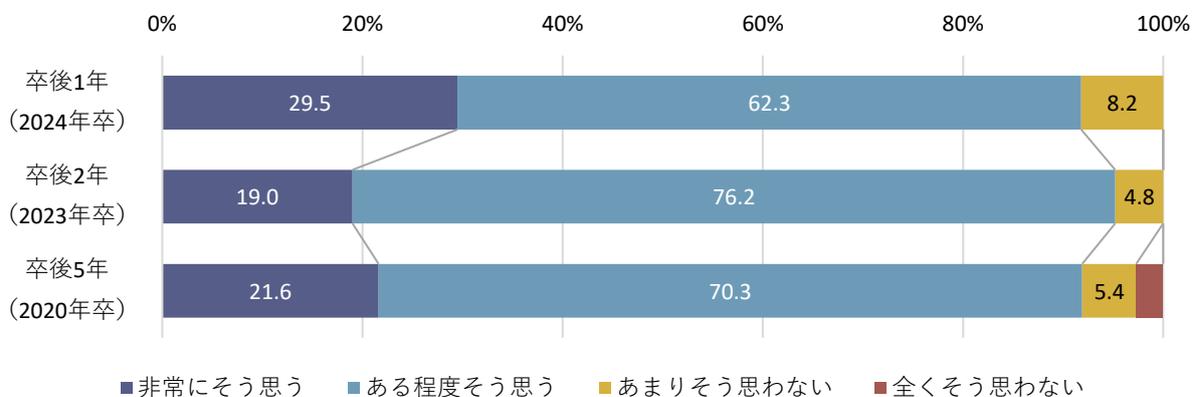
【全体】



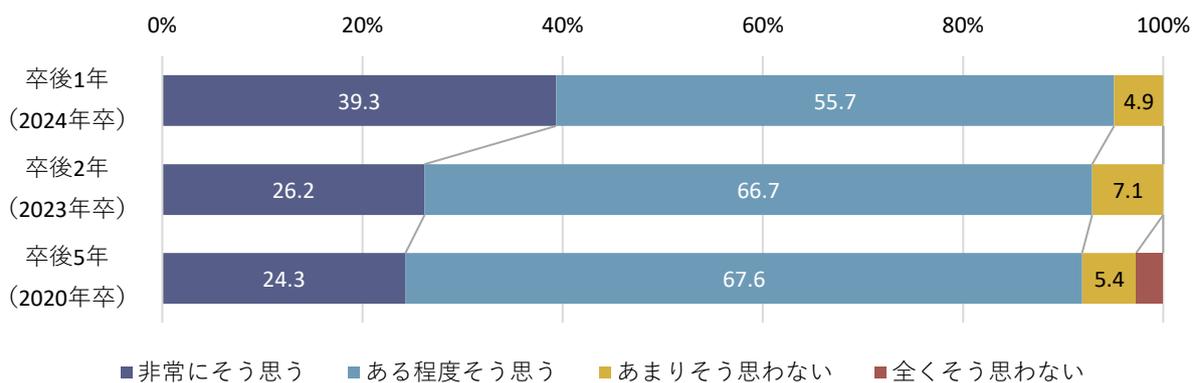
以下、項目ごと、卒業年ごとに示す。

【卒業年別】

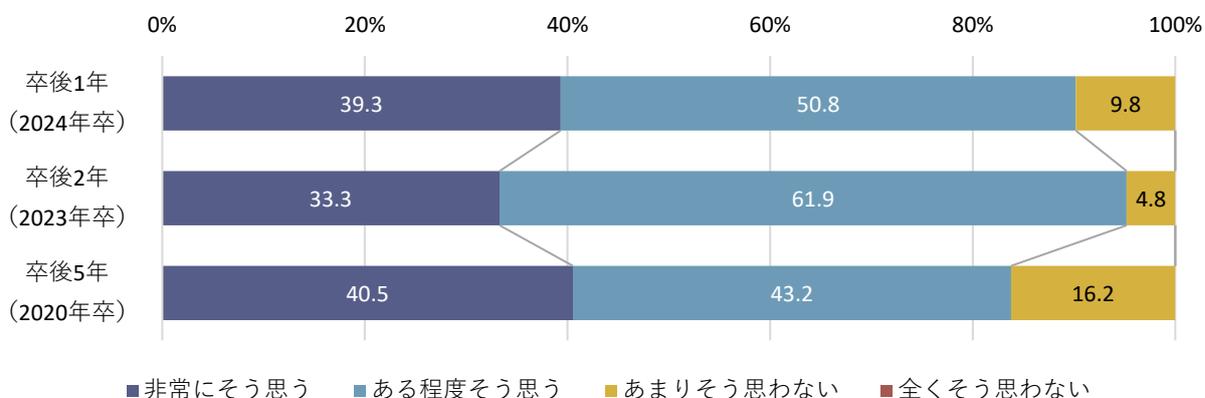
(1)東京医科大学のカリキュラムに満足している



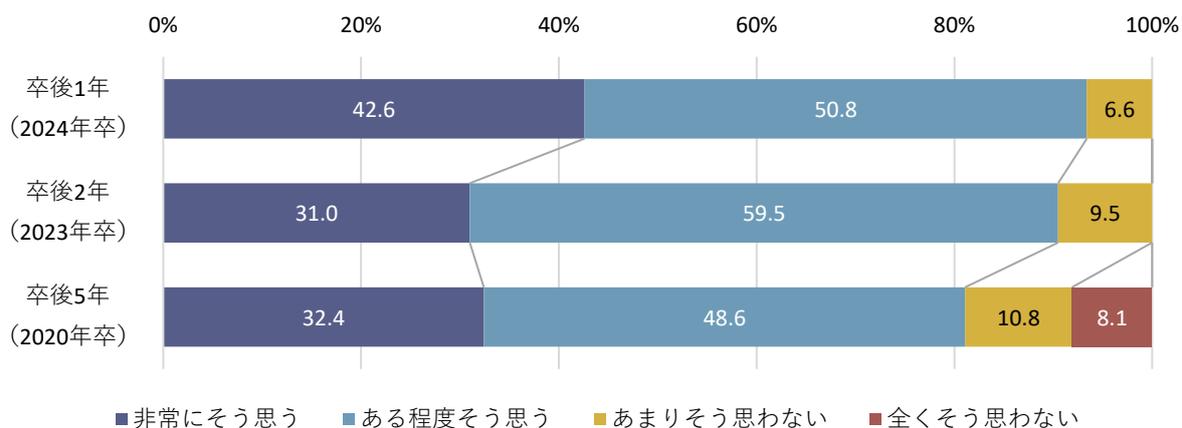
(2)東京医科大学の教育内容に、全体として満足している



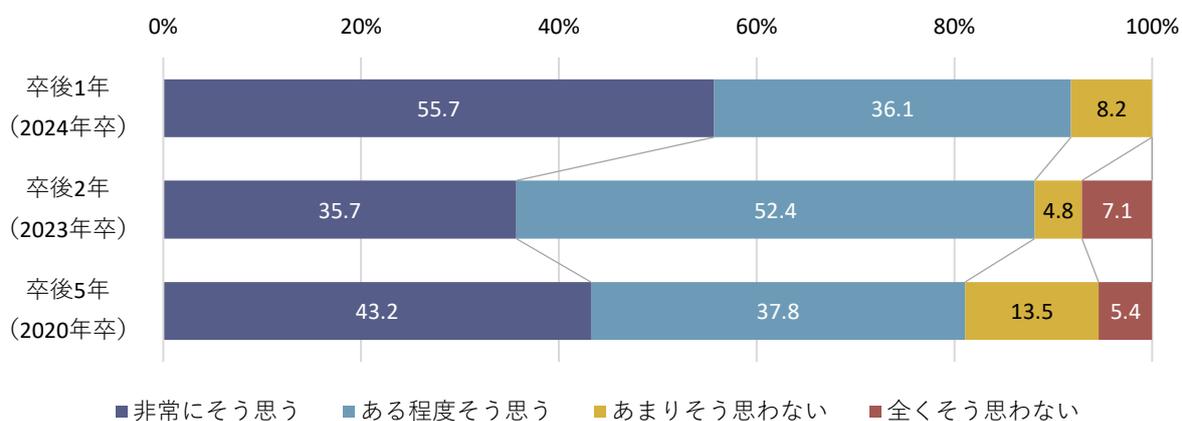
(3)東京医科大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている



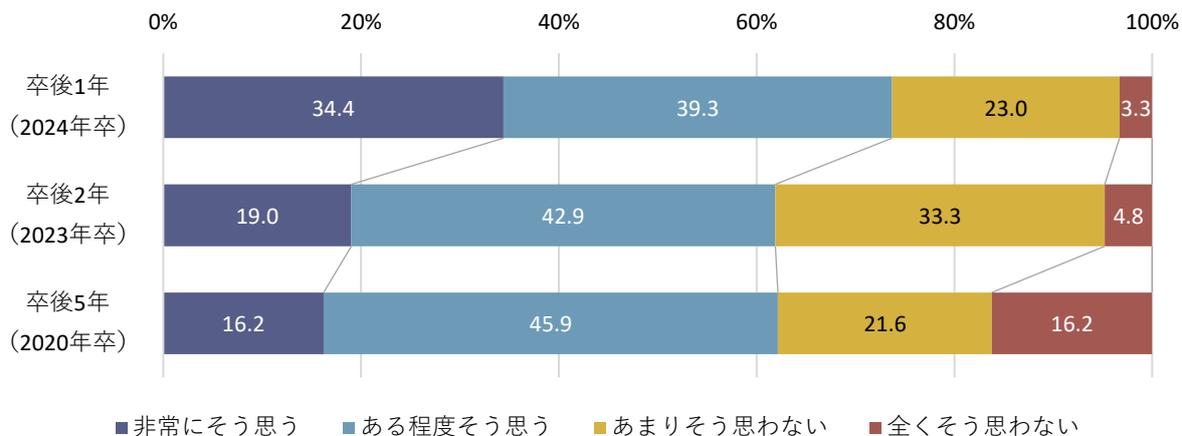
(4) 東京医科大学の卒業生であることを誇りに思う



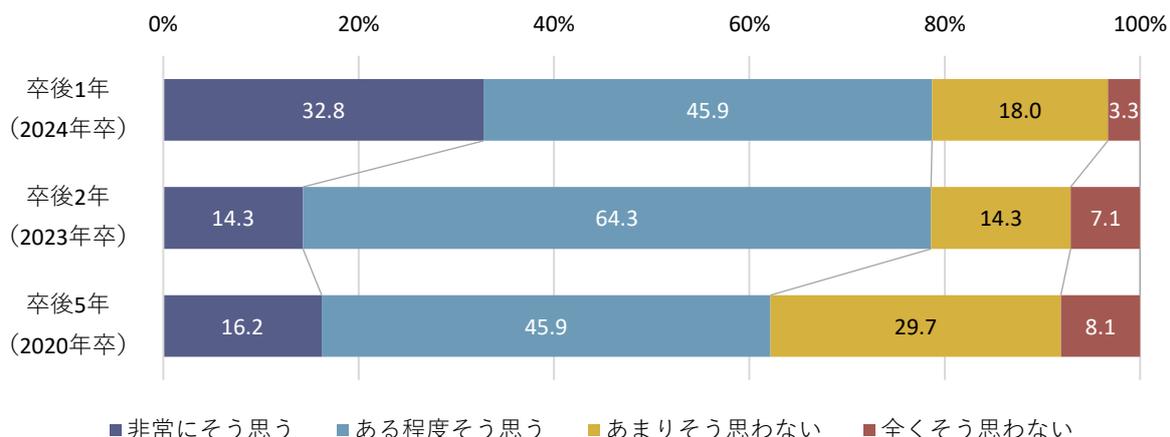
(5) 卒業後も東京医科大学の卒業生同士のつながりを大切にしている



(6) 卒業後も東京医科大学の教員とのつながりを大切にしている



(7)東京医科大学への受験を知人や将来の自分の子供に薦めたい



Q24. 東京医科大学の教育をより良くするためのご意見、または、東京医科大学へのご要望等を、自由にご記載ください。

●良かった点

- ・ 自主自学が自分に合っていてよかった。
- ・ 国際看護学で行ったラオス研修が、忘れられない授業となり、今後の看護師として活かしていきたいです。

●カリキュラムや科目、授業体制について

- ・ 看護学科もメインで部活できる。語学を充実。
- ・ 大学病院がせっかく地域周産期母子医療センターなので、助産師養成課程があるといいなと思います。
- ・ ぜひ、看護国家試験に特化した教育でなく、将来的な看護の幅を広げるような教育をこれからも望みたい。国試はあくまで一つの選択肢であり、特化した対策をする意味はあまりないと思う。(自分の時には他大と比較して、国試にこだわりすぎていなかったと思うので良かったと思いますという意味です)
- ・ コピー用紙配布性は非常に不便でした。

4. まとめ

本アンケートは、卒後1年目(2024年卒)、卒後2年目(2023年卒)、卒後5年目(2020年卒)の卒業生を対象に実施したものである。卒業生からのフィードバックは教育の改善に重要である。また、これまでの調査をもとに改善された部分が、実際にどれほどの効果を得ているのかを把握するためにも貴重な指針である。前年度に引き続き、今回の回答でも、多くの忌憚のないご意見とともに叱咤激励のコメントをいただいた。調査をまとめるに当たり、忙しい合間を縫って回答して下さった卒業生の皆さまに感謝を申し上げますとともに、ご意思を反映させられるよう引き続き努めたい。

① 回答数

送付数249のうち140の回答が得られ、回収率は56.2%であった。この数値は前年度の48.3%を上回るが、2024年度は調査対象が変更(全卒業生から卒後1・3・5年生)になったこともあり、回収率にも影響した可能性を考慮する必要がある。

卒業年別の回収率を見ると、卒後1年(2024年卒)が66.3%、卒後3年(2023年卒)が50.6%、卒後5年(2020年卒)が50.0%であった。卒後年数の経過に関わらず、50%以上の卒業生に回答協力をいただいているが、卒業生の実態を把握するため、今後も引き続き回収率を高める方策を検討していく必要がある。

② 卒業後のキャリア

卒業直後は、全体として9割以上が就職しており、進学する者は6%弱いた。卒業年別における東京医科大学病院(西新宿)への就職割合は、5~6割で、おおむね安定した比率となっている。卒業直後に就職した者について全体では79.2%が同じ就職先で継続勤務しているが、卒業年別に見ると、卒後2年では17.9%が、卒後5年では54.3%が勤務先を変えている。また、卒業直後に進学した者の多くは、7割が看護師、2割が保健師、1割弱が助産師として勤務していた。

③ 教育の適切性と有効性

前年度までは、教育到達目標の達成度を尋ねていたが、今年度からは適切であったかを問うもへ変更し、到達目標も6個から4個に調整された。その結果、「適切さ」への回答は、すべての項目において「非常にそう思う」が36~40%、「ある程度そう思う」が55~60%で、総計して「適切である」と考える者の割合が90%を超える高い回答結果となった。この割合は卒業年別に見ても、ほぼ変わらない。

また今年度は、Q18「身についた能力」について問う質問が追加され、全部で18項目が設定された。ほとんどの項目において「身についた」「かなり身についた」「ある程度身についた」の合計)と回答する割合が全体で8割を超えたが、(4)「看護研究への関心」と(12)「語学など国際化への対応能力」については、他より低い結果となった。

カリキュラムの満足度に関しては、全体としてほぼすべての項目で満足度(「非常に満足」「ど

「明らかに満足」の合計)が8割を越えた。8割に届かず、「非常に満足」と回答した割合が20%を切ったのは、(2)「語学の授業」であり、先ほどの「身についた能力」においても語学の分野が低かったことと関連していることがわかる。ただし、卒業年別に見ると2024年の卒業生の満足度はそれ以前の卒業生の倍の数値となっている。

2024年までの卒業生はカリキュラム変更以前の学生であり、2025年度の調査では新カリキュラム後の卒業生が調査対象に含まれることになる。今後、卒業年ごとの変化がより明確になるのではないかと期待される。

「在学中にもっと学んでおけば良かったこと」は、もっとも回答者の割合が高かったものは、「看護の臨床技術」・「外国語科目・外国語能力」・「臨床医学の知識」がほぼ並ぶ結果となった。だが、卒業年別に見ると、とくに臨床技術や臨床知識の必要性を実感しているのは卒後1・2年の卒業生であり、卒後5年では「幅広い教養」や「論理的に考え、研究する力」の必要性を感じる傾向にあることが見て取れる。

④ 母校の良かった点、改善すべき点、総合的評価

母校の良かった点に関しては、回答が多かった順に「施設」、「教員」、「部活やクラブ活動」となっている。ただし、施設については卒業年度が新しいほど評価が下がっていく傾向にあり、これは施設の経年を考えると妥当な結果と思われる。

改善すべき点に関しては、55%が「特になし」と回答したが、改善を望む項目としては、「部活動やクラブ活動」、「教員」、「施設」、「職員」の順に回答が多かった。施設に関しては、エレベーターの使用制限やロッカーの問題を挙げる声が目立った。

東京医科大学への総合的評価については、(4)「東京医科大学の卒業生であることを誇りに思う」、(5)「卒業後も東京医科大学の卒業生同士のつながりを大切にしている」、(6)「卒業後も東京医科大学の教員とのつながりを大切にしている」という3つの項目が新しく追加された。

全体としては、(1)「カリキュラムに満足している」、(2)「教育内容に、全体として満足している」、(3)「教育は卒業後の仕事や生活に役立っている」、(4)「卒業生であることを誇りに思う」、(5)「卒業生同士のつながりを大切にしている」について、「非常にそう思う」「ある程度そう思う」を合計した割合が85%を超える高い回答結果となった。一方で、(6)「卒業後も東京医科大学の教員とのつながりを大切にしている」、(7)「東京医科大学への受験を知人や将来の自分の子供に薦めたい」については、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合計した割合が、(6)が32.6%、(7)が25.6%と、3割程度を占める結果となった。

卒業年別にみるとばらつきはあるものの、すべての項目において、卒業年が最近になるほど「非常にそう思う」「そう思う」と回答した者の割合が増加している。とくに(7)「東京医科大学への受験を知人や将来の自分の子どもに薦めたい」については、2020・2023年卒では「非常にそう思う」が14~16%であったのが、2024年卒では32.8%と倍増している。とはいえ、「そう思う」と回答する割合は、卒業年数が経過しても大きな減少が見られない。卒業後も継続して東京医科大学で得た繋がりを維持している傾向がある。総合的に、東京医科大学で受けた教育への自信や、卒業生同士の結びつきの強さを感じさせる回答結果となった。

<資料>

1. 卒業生アンケート質問票

1. 卒業生アンケート質問票

Q1. あなたの卒業年を教えてください。

1. 2024年卒(卒後1年目)
2. 2023年卒(卒後2年目)
3. 2020年卒(卒後5年目)

Q2. 性別を教えてください。

1. 男性
2. 女性
3. 回答なし

Q3. 卒業直後の進路を教えてください。

1. 就職した
2. 進学した(具体的な進学先名:)
3. それ以外(具体的に:)

分岐 : Q3 = 1 と回答した人は Q4 へ、 Q3 = 2 もしくは 3 と回答した人は Q9 へ

<卒業直後に就職した方に伺います>

Q4. 卒業直後の就職先はどちらですか。

1. 東京医科大学病院(西新宿)
2. 茨城医療センター
3. 八王子医療センター
4. それ以外(具体的な勤務先名:)

Q5. 卒業直後の業務上の職種を教えてください。

1. 看護師
2. 保健師
3. 養護教諭
4. その他(具体的に:)

Q6. 卒業直後の雇用形態を教えてください。

1. 常勤
2. 非常勤

3. その他(具体的に)

Q7. 現在も同じ所に勤務していますか。

1. している
2. していない

分岐 : Q7 = 1 と回答した人は Q13 へ、 Q7 = 2 と回答した人は Q8 へ

Q8-1. 卒業直後の勤務先の勤続年数を教えてください。

1. 1年未満
2. 1年以上～2年未満
3. 2年以上～3年未満
4. 3年以上

Q8-2. 退職理由を教えてください。()

<現在の状況について伺います>

Q9. 現在の状況を教えてください。

1. 勤務をしている(具体的な勤務先名:)
2. 進学している(具体的な進学先名:)
3. その他(具体的に:)

分岐 : Q9 = 1 と回答した人は Q10 へ、 Q9 = 2 もしくは 3 と回答した人は Q13 へ

Q10. 現在の業務上の職種を教えてください。

1. 看護師
2. 保健師
3. 助産師
4. その他(具体的に)

Q11. 現在の雇用形態を教えてください。

1. 常勤
2. 非常勤
3. その他(具体的に)

Q12. 現在の所属先の勤続年数を教えてください。

1. 1年未満
2. 1年以上～2年未満
3. 2年以上～3年未満
4. 3年以上

<ここから全ての方に伺います>

Q13. 卒業後に取得した資格を教えてください。

1. 保健師
2. 助産師
3. 養護教諭 I 種
4. 専門看護師(CNS)(具体的に:)
5. 認定看護師(CN)(具体的に:)
6. それ以外(具体的に:)

Q14. 卒業後に取得した学位を教えてください。

1. 修士(具体的に:)
2. 博士(具体的に:)

Q15. 卒業して社会に出たことで、“医療職として社会に貢献するという意識”は変化しましたか。

5. 大いに变化した
4. ある程度变化した
3. どちらでもない
2. あまり变化しなかった
1. 全く变化しなかった

Q16. 卒業してから今まで、社会貢献活動やボランティアなどの活動(災害支援、子どもの学習支援、学会や協会の委員/役員、地域奉仕活動など)に参加しましたか。具体的に教えてください。

<東京医科大学医学部看護学科での教育について伺います>

Q17 東京医科大学看護学科では卒業時に達成すべき教育到達目標を定めています。この教育到達目標はご自身の経験に照らして、適切なものであると考えますか。

- ① 人間の尊厳を守り高い倫理観に基づいた行動がとれる。
- ② 科学的根拠に基づき判断し看護実践ができる。
- ③ 看護職の役割を認識し多職種と連携する基盤を身につける。
- ④ 生涯にわたって看護職として自己研鑽する力を身につける。

4. 非常にそう思う
3. ある程度そう思う
2. あまりそう思わない
1. 全くそう思わない

Q18. 東京医科大学での授業や活動を通して、以下の能力を身につけることができましたか。

- ① 看護師としての倫理観
- ② 疾病や検査に関する知識
- ③ 協働のための協調性
- ④ 看護研究への関心
- ⑤ ものごとの問題点をみつけ解決方法を考える能力
- ⑥ 疾病予防の考え方と保健・医療制度の知識
- ⑦ 自己研鑽・自己啓発を継続的に行える学習習慣
- ⑧ 豊かな教養による社会を見る広い視野
- ⑨ 看護実践のための知識
- ⑩ 豊かな人間性
- ⑪ コミュニケーション能力(技法)
- ⑫ 語学など国際化への対応能力
- ⑬ 論理的な思考力
- ⑭ 医療安全についての知識
- ⑮ 礼儀・協調性・責任感などチーム医療に必要な能力
- ⑯ IT時代に対応した情報スキル
- ⑰ 患者・家族に対する接遇・態度の能力
- ⑱ 自分の意見を筋道立てて表現する能力

4. かなり身についた
3. ある程度身についた
2. あまり身につかなかった
1. 全く身につかなかった

Q19. 東京医科大学在学中の各カリキュラムや設備に対して、どのくらい満足していますか。

【2023年度卒までの方(2013カリキュラム)】

- ① 一般教育系科目の授業・実習(語学を除く) 例)生命科学、心理学、現代社会と法(憲法)、情報科学
- ② 語学の授業
- ③ 専門基礎科目:病気と治療、保健医療福祉の仕組み 例)診断治療学、保健統計学

- ④ 専門科目:看護の基礎 例)看護学概論、看護リテラシー I・II
- ⑤ 専門科目:生活環境と看護の対象 例)健康生活支援論、看護対象論 I・II、看護初期実習
- ⑥ 専門科目:看護援助の方法 例)治療看護技術論 I～III、看護展開実習 I～V
- ⑦ 専門科目:看護提供の仕組み 例)看護システムマネジメント論、看護システム実習
- ⑧ 専門科目:グローバルヘルス 例)災害看護論、国際看護活動論
- ⑨ 専門科目:看護の統合 例)看護課題ゼミ、統合実習、卒業研究
- ⑩ 専門科目:コミュニティヘルスケア 例)地域看護学概論、地域看護学実習

- 4. 非常に満足
- 3. どちらかと言えば満足
- 2. どちらかと言えば不満
- 1. 非常に不満

Q19-2. そのほか、カリキュラムや科目についてご意見があれば聞かせてください。

Q20. 在学中にもっと学んでおけば良かった、身につけておけば良かったことはどのようなことですか。

(複数回答)

- 1. 幅広い教養教育(文学・歴史など)
- 2. 外国語科目・外国語能力
- 3. 治療診断系や臨床医学の知識
- 4. 看護の専門的な知識
- 5. 看護の臨床技術
- 6. 論理的に考え、研究する力
- 7. その他(具体的に:)
- 8. 特になし

Q21. 現在、東京医科大学医学部看護学科を振り返って、良かったと思う点について教えてください。

該当する項目について、「良かったと思う点」の内容を、具体的にお書きください。

- 1. 施設(具体的に:)
- 2. 教員(具体的に:)
- 3. 職員(具体的に:)
- 4. 部活やクラブ活動(具体的に:)
- 5. その他(具体的に:)
- 6. 特になし

Q22. 現在、東京医科大学医学部看護学科を振り返って、改善すべきと思う点について教えてください。
該当する項目について、「改善すべきと思う点」の内容を、具体的にお書きください。

1. 施設(具体的に:)
2. 教員(具体的に:)
3. 職員(具体的に:)
4. 部活やクラブ活動(具体的に:)
5. その他(具体的に:)
6. 特になし

Q23. 現在、東京医科大学医学部看護学科を振り返って、総合的にどのように感じていますか。

- ① 東京医科大学のカリキュラムに満足している
 - ② 東京医科大学の教育内容に、全体として満足している
 - ③ 東京医科大学の教育は卒業後の仕事や生活に役立っている
 - ④ 東京医科大学の卒業生であることを誇りに思う
 - ⑤ 卒業後も東京医科大学の卒業生同士のつながりを大切にしている
 - ⑥ 6. 卒業後も東京医科大学の教員とのつながりを大切にしている
 - ⑦ 東京医科大学への受験を知人や将来の自分の子供に薦めたい
-
4. 非常にそう思う
 3. ある程度そう思う
 2. あまりそう思わない
 1. 全くそう思わない

Q23. 東京医科大学の教育をより良くするためのご意見、または、東京医科大学へのご要望等を、自由にご記載ください。

本アンケート結果を公表した際にご連絡いたしますので、宜しければメールアドレスをお書きください。
(それ以外の目的には使用いたしません。)

どうもありがとうございました。

5. おわりに

東京医科大学看護学科卒業生アンケートは、卒業生による本学教育への評価や卒業後の実績・キャリアの把握を通じて、教育プログラム改善を図るための資料とすることを目的に実施しています。2023年度までは全卒業生に回答を依頼していましたが、卒業生が毎年回答する負担を考慮し、2024年度は卒後臨床研修等で変化の大きい卒後1年、2年、5年の卒業生を対象としました。発送数は249件、回答数は140件で、回収率は56.2%でした。貴重なお時間を割き、丁寧にご回答くださった卒業生の皆様に、心より御礼申し上げます。

2015年度に設立された東京医科大学教育IR (Institutional Research) センターでは、「学修成果・教育成果を把握・検証する方針 (アセスメント・ポリシー)」に基づき、アンケート調査や各種指標の収集・分析を通じて、学修成果・教育成果の把握と可視化を継続的に行っています。卒業生アンケートもその一環に位置付けられます。本報告書が、本学における教育の質保証のための重要な情報 (エビデンス) として活用されることを期待しています。

本調査は、多くの方々のご協力により実施することができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。特に、卒業生への連絡先をご提供いただいた東京医科大学看護同窓会、ならびに看護同窓会会長 石塚睦子先生に深く感謝申し上げます。また、本報告書を取りまとめるにあたり、教育IRセンター専門委員会の先生方から貴重なご助言を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。

今後とも、教育IRセンターの活動にご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

東京医科大学 教育IRセンター
センター長 増淵 伸一

◆調査総括・結果検討

東京医科大学 教育 IR センター 専門委員会

委員長 増渕 伸一 (教育 IR センター・センター長)

副委員長 井上 茂 (公衆衛生学分野)

副委員長 小林 信 (看護学科 精神看護学)

委員 天野 景裕 (臨床検査医学分野)

篠田 章 (生物学教室)

成瀬 和子 (看護学科 国際看護学)

瀬戸山 陽子 (教育 IR センター)

油川 ひとみ (教育 IR センター)

原 瑠美 (教育 IR センター)

東京医科大学医学部医学科 卒業生アンケート 結果報告書

作成 東京医科大学 教育 IR センター

2025 年 9 月 16 日発行

問い合わせ先

住所：東京都新宿区新宿 6-1-1

電話番号：03-3342-6111 内線：2072

メール：ir-cen@tokyo-med.ac.jp

